Sugiyama
人間になろう

# 学園報

2016.7.29 vol.148

CONTENTS

学園創立111周年記念式典・祝賀会 01
新任小学校長紹介 03
保育園開設1年を振り返る 03
椙山女学園 平成27年度事業報告書 04
椙山女学園の財政 06
学園ニュース 10
理事会・評議員会の議題・報告事項・学園規程の変更 16
人事・顕彰・訃報・NEW FACE 17
役員・評議員・組織 18
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名 19
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記 20

## 学園創立111周年記念式典・祝賀会

日時：平成28年5月31日（火）　午後6：30開会／午後8：30閉会
会場：名古屋ガーデンパレス

式次第
理事長式辞（理事長 森棟公夫）／学園長挨拶（学園長 椙山正弘）／
永年勤続者表彰／被表彰者謝辞（代表 文化情報学部教授 犬飼守薫）／
祝辞・乾杯（学園同窓会長 篠崎桂子）／祝宴（新任職員紹介）／
閉会の挨拶（小学校校長 森和久）

## 理事長式辞（要旨）　理事長　森棟 公夫

学園は本年で111年の歴史を刻みます。また、本日は47名の職員の方が、永年勤続者として表彰を受けられました。40年勤続の教育学部 佐藤厚子教授、文化情報学部 犬飼守薫教授を筆頭といたしまして、お名前は省略しますが、35年勤続5名、30年勤続4名、25年勤続11名、20年勤続7名、15年勤続8名、10年勤続11名の方々がおられます。47名の皆様、誠におめでとうございます。また、学園に対する長い間のご貢献、ご苦労様でございました。皆様のおかげもあり、今日の椙山女学園があります。これからも、よろしくお願い申します。

話を創立111年の学園に戻しますと、昨年の4月に、保育園が開設しました。3月に一年が終わり、現在は2年目に入りました。昨年度の決算が5月末に確定いたしましたが、特筆すべきは、保育園の収支が初年度から黒字となったことです。また2年目は、5名のお子さんを定員を超えて受け入れています。

また、新園舎で保育を行っている幼稚園は、預かり保育を拡充しております。

小学校も校舎の新築後はクラス数を増やしており、学童保育なども拡充しています。また4月の入学者は87名となり近年では最高の入学者数となりました。

中学校と高等学校については、この春の入試は中高の先生方の努力の結果、予定通りの入学生数を確保できました。特に、中学は1年から3年まで7クラスとなったことが、大きいと思います。

以前からお話ししているように、学園全体の財務は、大学生の授業料によって賄われている面が多々あります。他方で、幼稚園から小学校への進学、小学校から中学への進学、高校から大学への進学など学校間の接続が重要であることは当然です。

大学は、昨年はメディア情報学科の定員割れがあったものの、入学者は1500人で、過去最高でした。今年は人間関係学部で定員割れがありましたが、入学者は1463名でした。定員からすれば109％で、120名の定員超過です。少子化の中でも、この様な数字を維持していくことができれば、椙山女学園は安泰です。

大学が少子化の波の中で生き残っていくためには、椙山は常に教育の改善に務めているということを、外部に対してアピールしていくことが絶対に必要です。そのために、大学は「教育改革アクションプラン」を推進しております。その成果の

編集・発行　学校法人椙山女学園 事務局　〒464-8662　名古屋市千種区星が丘元町 17 番 3 号　TEL 052-781-1186　FAX 052-781-8831　URL http://www.sugiyama-u.ac.jp

学園創立111周年記念式典・祝賀会
新任小学校長紹介
保育園開設1年を振り返る
椙山女学園 平成27年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項・学園規定の変更
人事・頌彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

一つとして、教養科目はどの学部で取ってもよいという全学共通化を実施しました。その結果、教養科目の受講生の内、昨年は1800名（12%）、今年は2600名（18%）が、従来で言う他学部の科目を取るようになりました。学生が先生を選択して登録をするという現象が起きているようです。

少子化の影響がはっきりと見えてくる時代になったわけですが、いまこそ、学園の教育理念である「人間になろう」を確認し、総合学園としての絆を確認し、また総合学園としての総合力を発揮して、質の高い教育を作っていこうではありませんか。本日は創立111周年の記念日であります。椙山女学園が末永く存続するために何をなすべきなのか、皆様も今一度お考えください。合わせて、皆様が所属されている学校におかれまして、椙山女学園の魅力を高める一層の努力をしていただくことを心より期待しております。よろしくお願いします。

## 被表彰者謝辞　文化情報学部教授　犬飼 守薫

学園創立111周年、誠におめでとう存じます。ただいま森棟理事長から永年勤続者として表彰をいただき、また過分なお言葉を頂戴しました。本当に感激ひとしおです。私ども今回の表彰者が大過なく勤めることが出来ましたのは、歴代の理事長先生をはじめとする諸先輩のお導きと、皆様の賜物によるものと、被表彰者を代表して、心よりお礼申し上げます。

愛知県立の高等学校国語教諭の3年間の勤務を経て、椙山女学園大学短期大学部国文専攻の専任講師として奉職するという僥倖に恵まれましたのは、今から40年前の昭和51年4月のことでした。英文専攻との2専攻からなる全国でも屈指の名門校で、その一隅に身を寄せることが出来ましたのは本当に幸運そのものと言う外ありません。その間に椙山女学園の教育理念「人間になろう」そのものの教えを数多く戴きました。近代短歌研究の碩学であられた山崎敏夫主任教授には、受験には直接関わりのない、1年生対象の前任高等学校での非常勤講師を、お世話になったお礼の意味から、1年間のみ、特別のご配慮でお許し戴きました。振り返って顧みますと、いかに破格な、人情味あふれるご対応であったかと今更ながらに感じ入ります。さらに、最初の1年間は、諸先生の校務執務の様子をよく見ておくようにというご指示の下、一切の委員の役職を免除して戴きました。さらに、共同研究室でくつろいでいると、「若い人は、早く家に帰って勉強しなさい。」とやさしく、諭すようにユーモアを伴ってお導き戴いたことは、再々でした。山崎先生をはじめとする、一流の研究者の数多くの諸先生のおかげで、まがりなりにも学究の徒としての道を歩き続け、「近代国語辞書編纂史」研究を進めることができ、今日の私があるのは、まさに、数多くの方々のお蔭と心より感謝申し上げます。短期大学部の廃止、文化情報学部の開設を経て、現在メディア情報学科で、研究職員として身を置く今、古き良き椙山から、7学部4研究科を擁する女子総合学園に発展する様子を、身をもって見守ることができましたのは、まさに望外の喜びです。

2018年問題を控え、更なる椙山女学園の発展を祈念し、微力ではありますが、その一助になれるようにと決意を新たにいたしました。

最後になりましたが、学園の更なる発展と皆様のご健勝を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。本日は、誠に有難う存じました。

# 新任小学校長紹介

小学校長　森 和久

名古屋市出身
愛知教育大学教育学部卒業
名古屋市立小学校長、名古屋市教育委員会指導主事、教職員課課長、学校教育部部長などを歴任
平成28年4月より
椙山女学園大学教育学部教授

## 自立し協働できる子どもの育成をめざして

この4月より、附属小学校長を仰せつかりました教育学部の森和久と申します。名古屋市の小学校や教育委員会で35年間勤めて参りましたが、お誘いをいただきこの椙山女学園でお世話になることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

伝統に根ざしつつ先取の気風をもつ本校の歴史の一隅に加えていただくことは、身に余ることであり、先人の築かれた功績を汚すことのないよう努めて参りたいと考えております。

もとより微力な者ではございますが、私なりに大切にして参りたいことを申し上げます。それは「自ら主体的に判断するとともに他者と協働することができる子どもを育てたい」ということです。

世の中の変化が加速するなか、「これまで通りにしていればいい」「誰かの言っていることにただ従っていればいい」ということではなく、自分の考えをしっかり持って、主体的に判断することがますます大切になってきます。

一方、一人の考えには限界がありますから、多様な考え、異なる考えをうまく融合させ、協働することができなければなりません。

自分の考えをしっかりともちつつ、独りよがりにならないということが大切であると考えます。つまり、「自立と協働」ということです。

本校では、伝統と先進の教育を融合させながら、主体的かつ協働的な学びの実践が進められてきています。その基盤をもとに、一層、自立し協働できる子どもを育てる学校にして参りたい。そして、そのために例えば学習課程のあり方など教育活動の工夫改善をさらに進めて参りたいと考えているところです。

私自身も、来たばかりだからと行って甘えるばかりでなく、自ら主体的に判断・行動するとともに、保育園から大学院までの一貫教育校であることの特質を生かすべく、多くの方々と協働して参りたいと考えております。

皆様のさらなるご指導ご支援をお願い申し上げます。

# 保育園開設1年を振り返る

## 保育園 激動の一年　保育園長　小林 豊子

平成27年4月4日(土)に開園式・入園式を行なった椙山女学園大学附属保育園は、翌月曜日から激動の一年が始まりました。

新しい環境への不安感から0歳児～2歳児まで30名の園児全員が大声で泣き叫びました。保育士たちにとっても不慣れな環境の中で、子どもたちの大切な命を守りながら、そして、子どもや保護者の不安や戸惑いを受け止めながらの保育でした。園児は、一日の大半を保育園で過ごします。そのため、全職員は、職員間で子どもたちの個性、生活リズム、家庭環境などの情報を共有しながら保育を行います。12時間の保育を行うため職員は時差勤務をしています。

様々な問題にも出会いました。その都度、子どもにとって必要なことは何だったのか、どうすればよかったのかを職員全体で振り返ってきました。このような状況の中、七夕、親子で遊ぼう会(運動会)、ハロウィン、クリスマス会など季節の行事を過ごし、平成28年3月26日(土)には第1回の卒園式を迎えました。子どもたちの心身ともに成長した姿を見ながら、毎日が「必死」で感慨深い保育園初年度を過ごした職員の目には涙が溢れました。

さて、2年目の保育園が始まりました。待機児童対策のため、保育園は30名から35名に定員増を行いました。これからも、子どもたちが人間性豊かに育ってくれることを願いながら保育していきます。

初の入園式

クリスマス会

プール開き

感無量の卒園式

# 椙山女学園 平成27年度事業報告書

平成27年度は、特に以下の5点の基本方針に基づき事業を行った。
①「学士力」「就業力」等時代に合った人材育成を進めていくが、学園の教育理念「人間になろう」を引き続き堅持し、さらにその具現化を図る。
②女子教育の今日的意義を明確にしながら、当面幼稚園を除き女子教育を堅持する。
③女子総合学園、女子総合大学のメリットを生かす教育を行い、教育・研究の充実を図る。
④少子化に対応できる積極的な経営を貫いて健全な財政を樹立し、経営の安定化を図る。
⑤教職員の力が発揮されるよう、一体感のある風通しのよい学園運営を行う。
以下、平成27年度事業報告の概要を掲載する。

## 学園に関する事項について

### 学園創立110周年事業

5月に学園創立110周年記念式典及び物故者追悼式を挙行した。学園創立110周年記念椙山フォーラムとしては、6月に食育フォーラム「ロコモティブシンドロームって何？」（食育推進センター主催）、12月に株式会社ジュン アシダの芦田多恵氏（ファッションデザイナー）を迎え、メインフォーラム「女性のライフデザインを考える」（人間学研究センター及びエクステンションセンター主催）を開催した。2月には、愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて、「音楽が結ぶ絆」をテーマに、ヴァイオリニスト辻彩奈氏（本学園中学校卒）を迎え、椙山女学園オーケストラによる学園創立110周年記念コンサートを開催した。

「学校法人椙山女学園教育振興基金」については、平成26年度から事業を開始し、累計20,067千円の寄付を受けた。

### 保育園の開園

0～2歳児を対象とした椙山女学園大学附属保育園を設置し、初年度は0歳児6名、1歳児12名、2歳児12名が入園した。今後も名古屋市と連携しながら本園の「保育目標」及び「保育方針」に基づいた適切な運営を行い、保育の充実に努めていく。

### 学士課程教育の質的転換を図るための大学改革の推進

学長のリーダーシップの下、「椙山女学園大学中期目標」及び「椙山女学園大学改革アクションプラン2015」を策定し、全学を挙げて大学改革を推進した。本年度の主な成果としては、平成28年度の「社会連携センター」新設に向けた規程類その他の整備、教育課程の体系性の確認及び授業科目の関連性を明確にするためのルール策定、異文化理解の促進に向けた「国際化ビジョン」の策定などを行った。

### 事務局の行動計画

各課において学園の事業計画、大学の中期計画、大学改革アクションプラン及びIR室からの課題等を踏まえた単年度の行動計画を策定した。

### IRに関する諸活動

大学IR室においては、入学式において新入生及びその保護者に対して本学のイメージ調査を行った他、在学生に対して「学生気質・資質に関するアンケート」を実施し、分析を行った。企画広報部IR室では前年度に引き続きIR室員が事務局の各課の課題に対してデータをもとに現状分析・検証を行い、その分析・検証結果を冊子にしてまとめ、各部署に配付した。

### 人事・労務に関する諸活動

学園のSD（Staff Development）を推進するため、「椙山女学園SD委員会要項」を制定し、椙山女学園SD委員会において、事務職員の行動指針の策定及びSD研修について検討した。また、大学活性化経費事業として、本年度も職員が先進的な取り組みを行っている他大学への訪問調査を行った。

### 財務に関する諸活動

これまでの予算執行及び事業内容の見直し、無駄な経費の削減、必要な事業への重点配分などを行った。

私立大学等経常費補助金の獲得については、実態を調査、調整を行ったうえ申請を行い、私立大学等改革総合支援事業のタイプⅡに採択された。その他、「私立大学等研究設備整備費等補助金」を獲得した。

### 施設に関する諸活動

平成27年度事業計画として掲げた大学会館食堂天井再設置・照明ＬＥＤ化工事の他、各キャンパスで施設・設備の改修工事、保全工事を行った。防災対策として、防災対策委員会で策定した整備計画に基づき、備蓄品の整備、備蓄倉庫の設置を行った。

### 広報活動

学園及び各学校のウェブサイト更新から1年目にあたり、ログ解析と評価に基づく改善、コンテンツの追加を行った。高等学校から保育園・幼稚園までのウェブサイトでは、スペシャルサイトの充実を行った。大学の広報として、初めてＪＲ名古屋駅のコンコースでのデジタルサイネージ掲出を行った。また、学園の広報として初のテレビCMを放送した。その他、大学広報戦略WGが主催となり教職員向けの勉強会を開催した。

### 保育園

平成27年度事業計画に示した4つの保育方針である①健康な心と体、②人間関係力、③自己発揮、④道徳性に沿って保育を進めた。

保育を行うにあたっては、保護者及び地域との連携を密にし、交流を深める場を作った。

## 大学に関する事項について

### 教育事業

全学共通科目「人間論」の共通化・開放化に向け、平成28年度より全学部が前期金曜日の午後に開講するよう整備した。7学部の学生が幅広い教養を学ぶことができるよう教養教育科目の全学共通化を行った。

キャリア教育の充実のため、教養教育科目に新たに「女性とキャリア」領域を設置し、「仕事学入門」、「ライフデザイン」、「ピア・サポート理論と実践」などの10科目を配置した。

FD活動については、学生に対する授業評価アンケート調査、学生の学修時間等に関するアンケート調査、また、教員の自己点検アンケートを実施した。アクティブ・ラーニングやICT活用による授業改善等に取り組んでいる教員に対して、試行的に学生FDスタッフによる授業支援を実施した。

### 学生生活支援

奨学金制度については、椙山女学園大学同窓会奨学金、椙山女学園同窓会奨学金、椙山女学園大学振興会海外留学補助金などを給付した。昨年度まで実施していた椙山女学園大学学業奨励奨学金を見直し、学業優秀賞は優秀な学業を修めた学生に対して、特別活動奨励賞は研究活動、文化・芸術活動、スポーツ活動、社会貢献活動などに顕著な功績を残した学生に対して表彰し、奨励金を授与することに変更した。

課外活動支援については、活動費補助金の配分について、活動実績などによる査定を行い、活動実態に応じて補助した。また、入学式において有志団体によるクラブ紹介のパフォーマンスを行った。就職支援・キャリア支援については、キャリア教育とキャリア支援、キャリアに関わる各種イベント、行

学園創立111周年記念式典・祝賀会
新任小学校長紹介
保育園開設1年を振り返る
椙山女学園 平成27年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項、学園規定の変更
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

事を有機的に結び付け、学生のキャリア形成を支援することを目的として、4月より「キャリア育成センター」を開設した。平成28年度卒業生から、採用選考活動の開始時期が卒業年度の6月に繰り上げられたことから、本学でも3年生に対する就職ガイダンス、各種セミナーなどのスケジュールを見直し実施した。

### 研究支援

学士課程教育の質的転換に向けた取り組みに対する支援経費として創設した大学活性化経費は、教育の質的転換に関する事業をはじめとして合計27件の事業を採択した。

### 国際交流

国際交流を通して異文化理解を推進し、グローバル時代にふさわしい女子大学として教育理念「人間になろう」の具現化を推進するために、5ヵ年の国際化ビジョンを策定した。

### 学術情報

中央図書館ラーニングコモンズ空間を利用し、主としてゼミ単位での利用を中心に学習支援プログラムを実施した。その他、学術機関リポジトリの運営、図書館活性化事業として学生サポーターによる選書ツアー（書店とのコラボ）及び企画展を実施した他、地域の一般女性向けに図書館を開放し、利用の促進を図った。

### 社会貢献・連携事業

日進市と従来からの市民向け公開講座や図書館の相互貸借協定などの個別連携に加えて、日進キャンパスを利用しての大学連携講座を実施した。その他、独立行政法人都市再生機構との連携、東山総合公園などとの連携を行った。

高大連携として、椙山女学園高等学校との連携を強化するため、推薦合格者向け特別プログラムを新たに実施した他、併設高等学校以外の高等学校についても、2校目となる高大連携に関する協定を締結した。

その他、エクステンションセンターにおいて公共団体や民間企業と連携した講座の実施、臨床心理相談室において地域の方への心理相談を行った。

### 学生募集・入試改革

受験生への告知として、雑誌媒体、交通媒体、新聞媒体、インターネット媒体などに広告掲載を行った。高等学校からの依頼による進学説明会、出張講義、大学見学、高校訪問などを積極的に行い、募集を強化した。

### 管理運営

自己点検・評価活動として、「大学年報－第18号（平成26年度）－」を刊行し、「点検・評価報告書」及び「大学基礎データ」の内容を掲載した。

## 高等学校・中学校に関する事項について

### 教育活動

高等学校及び中学校では、基礎学力の定着、家庭での学習習慣定着のための補習、小テスト実施、課題点検などを行った。高等学校・中学校とも外部業者による学力推移調査を実施し、担任・教科担当者へ調査結果を還元し、学習指導に活用した。また、語学研修プログラムとして、ブリスベンの交流校ホームステイプログラムを実施した。また、台湾の文徳女子高級中学生徒の本学への受け入れを行った。

### 生活指導

日常的に校内外のマナー指導を行った。また、「椙山女学園中・高いじめ防止対策委員会」を開催し、日頃の生徒指導に関する議論を行った。

### 進路指導

高等学校では併設校・指定校推薦で進路を決定する生徒が大多数であるため、学年毎のあるべき進路指導の形を模索した。大きく変化しつつある大学入試について認識しつつ、本校生徒の実情に則した対応を念頭に置き、高校3年生のみならず、早い学年からの進路指導を行った。

### 入試・募集対策

学内外における入試・進学相談を広報委員などが中心となり実施した。入試結果を踏まえたうえで、次年度に向けた生徒募集対策を検討した。

## 小学校に関する事項について

### 基本方針

ＰＴＡ及び学園と連携した学校づくりを継続し、新校舎での3年目として広く開放的な校舎の空間を生かした教育活動を展開した。

ユネスコスクールとして、文部科学省や愛知県が推進するＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の研究実践を推進した。

椙山女学園アフタースクールの開設3年目にあたり、放課後の児童の安全安心な居場所としての学童クラブ、新たな学びを展開するクリプトメリアンセミナーや総合学園ならではの一貫教育を生かすスペシャルプログラムを実施し、多くの児童が参加した。

### 教育活動

学習指導要領に依拠しつつ、全校での授業研究を実施し、授業検討会を開催した。学力の基礎をなす国語・算数をはじめ、他の教科・領域も協同的な学び合いを導入し、学力の向上と共に、児童の自ら学ぶ意欲を高め、学びのコミュニティとしての学級の発展も図った。その他、国際交流としてイギリスのブライトンカレッジにおける寮生活の実施、名古屋フィルハーモニー交響楽団と連携した寄付教育の実施、情報教育としてパソコンの操作能力、プレゼンテーション能力向上を目指す授業の実施、環境教育として東山動物園と連携したプロジェクトを実施した。

### 生活指導

全校での指導の一貫性を図るため、挨拶、言葉遣い、制服の着こなし、靴並べ、文房具の標準化、給食指導、道路の歩き方、乗り物内での態度など児童の生活指導における標準化を継続して行った。

### 保護者・地域との連携

ＰＴＡ活動の中に、既存の幹事会と共に、保護者が主体的に学校づくりに参加、協力する集まりがあり、教職員と共に、学校改革の推進を図った。地域との連携として、覚王山商店街の活動への参加などを行った。

### 入学試験

名古屋地区において、私立小学校が3校存在し、入試状況も厳しさが増しているため、募集方法・入学試験、学校説明会などの改善を行った。入試広報については、小学校単独ではなく、広報課と連携し、ホームページやパンフレットなどによる広報活動を行った。

## 幼稚園に関する事項について

### 教育活動

平成27年度事業計画に示した次の4つの教育方針（①健康な心と体、②自己発揮、③人間関係力、④道徳性）に沿って教育を進めた。さらに、「運動」「食育」「人間関係」など7つの分野別に立てた教育目標に沿って指導計画を作成し、実践した。

### 安全管理・保健管理

安全計画・危機管理マニュアルを見直し、改善を図った。避難訓練の他、緊急時備品の保管場所を常に明確にし、中身の確認や点検・入れ替えなどを行った。

### 保護者との連携

保育参観、保育参加、個別懇談会、希望者懇談会、学級懇談会、父親懇談会などを実施し、担任と保護者、また保護者同士の交流を深めた。

### 地域への開放・発信・連携

ホームページに園の行事や幼稚園の教育活動を掲載し、地域に紹介した。子育て講演会やＰＴＡ主催の「親子のつどい」を、地域の方々へも参加を呼びかけ開催した。

### 職員研修

外部の研修に教員全員が積極的に参加し、その成果を園内で報告した。園内においても共通のテーマに沿って討論を行い、その内容を発表し、情報共有を図る研修を実施した。

# 椙山女学園の財政 （平成27年度決算及び平成28年度予算について）

平成28年度予算は平成28年3月18日、平成27年度決算は平成28年5月20日開催の理事会でそれぞれ承認されましたので、その概要を報告いたします。

## Ⅰ　平成27年度決算について

### 1　平成27年度決算概況

平成27年度から学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成25年4月22日文部科学省令第15号）に基づき計算書類の様式を変更し、26年度の金額は、改正後の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて表示しています。

平成27年度決算については、図表1～3をご覧ください。平成27年度は、保育園の新設、人間関係学部の空調機更新工事、高・中スポーツセンタープール天井改修工事、大学会館の耐震化工事などによる結果が決算の各種指標に表れています。（金額は、千円未満を四捨五入したことにより集計額に誤差が生じています。）

### 2　事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）について

事業活動収支計算書は、当該会計年度の活動に対する事業活動収入（旧：帰属収入）及び事業活動支出（旧：消費支出）の内容を経常的及び臨時的収支に区分してそれぞれの収支状況が把握できるようになりました。継続的に保持する資産としての基本金を組入れた後の均衡の状態を明らかにして、学校法人の永続的な維持を図るために収支の均衡を明らかにする指標です。

平成27年度と平成26年度との比較表は、図表1のとおりです。

教育活動収支では、教育活動収入計が、103億円で前年度と比較し3億83百万円増加しました。創立110周年に寄せられた寄付金、保育園の開設による補助金、雑収入などの増加が主な要因です。教育活動支出計は2億1百万円増加しました。保育園の開設及び退職者の増加による人件費の増加が主な要因です。これにより教育活動収支差額は6億23百万円で前年度と比較して1億82百万円増加しました。

教育活動外収支では、受取利息・配当金による教育活動外収入及び借入金等利息による支出により教育活動外収支差額は1億28百万円と前年度と比較して4百万円増加しました。

これにより、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、7億51百万円となり経常的な収支バランスがとれています。

特別収支では、土地の売却をした前年度に対して特別収支差額が2億89百万円の増加の△9百万円と特に大きな事業活動が無かったことを表しています。

以上により、基本金組入前当年度収支差額（旧：帰属収支差額）は前年度に比して4億76百万円増加の7億42百万円となり、基本金組入後の当年度収支差額においても1億28百万円のプラスとなりました。

### 3　資金収支計算書について

資金収支計算書とは、事業活動収支項目に積立金や借入金等の外部資金を加えて、当該会計年度の諸活動に対応する全ての資金の収入・支出を明らかにし、支払資金の収入・支出の顛末を明らかにする指標です。

平成27年度と平成26年度との比較表は、図表2のとおりです。

資金収支上の科目として、収入の部では、借入金等収入、前受金収入及びその他の収入があり、支出の部では、借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出、資産運用支出及びその他の支出があります。前受金収入は、次年度の収入になるものを今年度に計上するもので、次年度入学生の入学金等が該当します。その他の収入は、施設・設備等の多額の支払資金に充てるために積み立てた特定資産からの取崩収入、前年度の退職金財団収入等の未収入金収入などです。施設関係支出は、土地、建物等不動産取得に要した資金が計上されています。設備関係支出は、備品、図書、ソフトウェア等不動産以外の学園の資産となる資産取得に要した資金が計上されています。資産運用支出は、特定資産に充てる資金が計上されています。

平成27年度は、施設関係支出で3億15百万円、設備関係支出で2億38百万円を計上しています。

その結果、翌年度繰越支払資金は64億26百万と前年度と比べて12億54百万円増加しています。

### 4　貸借対照表について

貸借対照表は、会計年度末時点での資産・負債・基本金などの学園の財産状況を表す指標です。平成27年度末時点での貸借対照表の概要は、図表3のとおりです。

資産総額は、425億円で前年度末に比べて9億75百万円増加しています。固定資産は人間関係学部の空調機更新工事、高・中スポーツセンタープール天井改修工事、大学会館の耐震化工事を行い、土地購入の手付金として建設仮勘定の計上したものの、減価償却などにより有形固定資産では6億63百万円の減少、特定資産は第3号基本金引当特定資産の組入れなどにより3億5百万円の増加となりました。

流動資産は、現金預金の増加などにより13億69百万円の増加となっています。

負債の部は、退職金などの未払金の増加で2億33百万円の増加、純資産の部は7億42百万円増加の376億92百万円となりました。

**図表1 平成27年度事業活動収支計算書（平成27年4月1日～平成28年3月31日）**

単位：千円

| 科目 | 部門 | | 27年度決算 | 構成比率% | 26年度決算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 8,113,797 | 77.7 | 8,046,387 | 67,410 |
| | | 手数料 | 159,630 | 1.5 | 164,069 | △ 4,439 |
| | | 寄付金 | 98,142 | 0.9 | 5,905 | 92,237 |
| | | 経常費等補助金 | 1,478,399 | 14.2 | 1,399,967 | 78,432 |
| | | 付随事業収入 | 183,866 | 1.8 | 169,565 | 14,301 |
| | | 雑収入 | 279,027 | 2.7 | 143,615 | 135,412 |
| | | 教育活動収入計 | 10,312,862 | 98.7 | 9,929,508 | 383,354 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 6,330,727 | 60.6 | 6,108,617 | 222,110 |
| | | 教育研究経費 | 2,663,705 | 25.5 | 2,674,979 | △ 11,274 |
| | | （内）減価償却額 | 1,081,408 | 10.4 | 1,116,199 | △ 34,791 |
| | | 管理経費 | 693,662 | 6.6 | 702,691 | △ 9,029 |
| | | （内）減価償却額 | 80,234 | 0.8 | 79,464 | 770 |
| | | 徴収不能額等 | 1,887 | 0.0 | 2,591 | △ 704 |
| | | 教育活動支出計 | 9,689,981 | 92.8 | 9,488,877 | 201,104 |
| | 教育活動収支差額 | | 622,880 | 6.0 | 440,631 | 182,249 |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 131,752 | 1.3 | 128,546 | 3,206 |
| | | その他の教育活動外収入 | 0 | 0.0 | 0 | 0 |
| | | 教育活動外収入計 | 131,752 | 1.3 | 128,546 | 3,206 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 3,357 | 0.0 | 4,368 | △ 1,011 |
| | | その他の教育活動外支出 | 0 | 0.0 | 0 | 0 |
| | | 教育活動外支出計 | 3,357 | 0.0 | 4,368 | △ 1,011 |
| | 教育活動外収支差額 | | 128,395 | 1.2 | 124,179 | 4,216 |
| | 経常収支差額 | | 751,276 | 7.2 | 564,809 | 186,467 |

単位：千円

| 科目 | 部門 | | 27年度決算 | 構成比率% | 26年度決算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 600 | | 209,043 | △ 208,443 |
| | | その他の特別収入 | 74,865 | | 132,674 | △ 57,809 |
| | | 特別収入計 | 75,465 | | 341,717 | △ 266,252 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 84,937 | | 640,245 | △ 555,308 |
| | | その他の特別支出 | 0 | | 0 | 0 |
| | | 特別支出計 | 84,937 | | 640,245 | △ 555,308 |
| | 特別収支差額 | | △ 9,473 | | △ 298,528 | 289,055 |
| 予備費（消費） | | | 0 | | 0 | 0 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | 741,803 | | 266,281 | 475,522 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 614,055 | | △ 377,695 | △ 236,360 |
| 当年度収支差額 | | | 127,748 | | △ 111,414 | 239,162 |
| 前年度繰越収支差額 | | | △ 7,676,101 | | △ 8,543,499 | 867,398 |
| 基本金取崩額 | | | 0 | | △ 978,812 | 978,812 |
| 翌年度繰越収支差額 | | | △ 7,548,352 | | △ 7,676,101 | 127,749 |
| （参考） | | | | | | |
| 事業活動収入計 | | | 10,520,078 | | 10,399,771 | 120,307 |
| 事業活動支出計 | | | 9,778,275 | | 10,133,490 | △ 355,215 |

注）構成比（%）は経常収入（教育活動収入計＋教育外活動収入計）又は経常支出（教育活動支出計＋教育外活動支出計）を100とした比率です。

### 図表2　平成27年度資金収支計算書（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

単位：千円

| 科目 | | 27年度決算 | 26年度決算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の部 | 学生生徒等納付金収入 | 8,113,797 | 8,046,387 | 67,410 |
| | 手数料収入 | 159,630 | 164,069 | △ 4,439 |
| | 寄付金収入 | 113,388 | 43,395 | 69,993 |
| | 補助金収入 | 1,525,693 | 1,471,717 | 53,976 |
| | 資産売却収入 | 1,050,600 | 1,800,059 | △ 749,459 |
| | 付随事業・収益事業収入 | 185,051 | 171,234 | 13,817 |
| | 受取利息・配当金収入 | 131,752 | 128,546 | 3,206 |
| | 雑収入 | 330,152 | 218,010 | 112,142 |
| | 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 |
| | 前受金収入 | 509,989 | 514,548 | △ 4,559 |
| | その他の収入 | 1,332,912 | 1,839,393 | △ 506,481 |
| | 資金収入調整勘定 | △ 843,474 | △ 637,230 | △ 206,244 |
| 当年度資金収入合計 | | 12,609,489 | 13,760,129 | △ 1,150,640 |
| 前年度繰越支払資金 | | 5,172,313 | 4,396,269 | 776,044 |
| 収入の部合計 | | 17,781,802 | 18,156,399 | △ 374,597 |

単位：千円

| 科目 | | 27年度決算 | 26年度決算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|
| 支出の部 | 人件費支出 | 6,331,898 | 6,136,510 | 195,388 |
| | 教育研究経費支出 | 1,578,986 | 1,556,854 | 22,132 |
| | 管理経費支出 | 614,161 | 625,157 | △ 10,996 |
| | 借入金等利息支出 | 3,357 | 4,368 | △ 1,011 |
| | 借入金等返済支出 | 100,133 | 116,874 | △ 16,741 |
| | 施設関係支出 | 314,737 | 355,570 | △ 40,833 |
| | 設備関係支出 | 237,958 | 272,564 | △ 34,606 |
| | 資産運用支出 | 2,446,219 | 3,637,951 | △ 1,191,732 |
| | その他の支出 | 301,549 | 564,886 | △ 263,337 |
| | | | | |
| | 資金支出調整勘定 | △ 573,153 | △ 286,650 | △ 286,503 |
| 当年度資金支出合計 | | 11,355,845 | 12,984,084 | △ 1,628,239 |
| 翌年度繰越支払資金 | | 6,425,957 | 5,172,313 | 1,253,644 |
| 支出の部合計 | | 17,781,802 | 18,156,399 | △ 374,597 |

### 図表3　平成27年度貸借対照表（平成28年3月31日現在）

単位：千円

| 科目 | 27年度末 | 26年度末 | 差異 |
|---|---|---|---|
| 資産の部 | | | |
| 固定資産 | 35,635,349 | 36,028,897 | △ 393,548 |
| 有形固定資産 | 25,952,990 | 26,616,325 | △ 663,335 |
| 土地 | 4,886,849 | 4,886,849 | 0 |
| 建物 | 16,197,540 | 16,830,387 | △ 632,847 |
| 構築物 | 868,242 | 936,559 | △ 68,317 |
| 教育研究用機器備品 | 1,655,567 | 1,787,416 | △ 131,849 |
| 管理用機器備品 | 131,508 | 143,274 | △ 11,766 |
| 図書 | 2,053,283 | 2,031,840 | 21,443 |
| 建設仮勘定 | 160,000 | 0 | 160,000 |
| 特定資産 | 6,111,439 | 5,806,783 | 304,656 |
| 第3号基本金引当特定資産 | 2,013,000 | 1,740,000 | 273,000 |
| 退職給与引当特定資産 | 2,004,400 | 2,003,300 | 1,100 |
| 減価償却引当特定資産 | 1,100,000 | 1,100,000 | 0 |
| 各種課程履修費特定資産 | 61,141 | 59,532 | 1,609 |
| 施設整備・教育研究充実特定資産 | 42,214 | 43,440 | △ 1,226 |
| キャンパス整備準備特定資産 | 800,000 | 800,000 | 0 |
| 教育振興基金特定資産 | 18,053 | 9,348 | 8,705 |
| 特別寄付金特定資産 | 5,147 | 3,272 | 1,875 |
| 施設設備充実資金果実特定資産 | 1,281 | 1,149 | 132 |
| 同窓会奨学資金果実特定資産 | 2,030 | 2,030 | 0 |
| 看護学部奨学資金果実特定資産 | 49,071 | 38,172 | 10,899 |
| 学園研究資金果実特定資産 | 1,102 | 1,101 | 1 |
| 学園教育資金果実特定資産 | 11,603 | 3,303 | 8,300 |
| その他の特定資産 | 2,396 | 2,136 | 260 |
| その他の固定資産 | 3,570,920 | 3,605,790 | △ 34,870 |
| 借地権 | 477 | 477 | 0 |
| ソフトウェア | 64,729 | 86,266 | △ 21,537 |
| 電話加入権 | 3,204 | 3,204 | 0 |
| 有価証券 | 3,111,924 | 3,111,924 | 0 |
| 保証金 | 390,585 | 403,919 | △ 13,334 |
| 流動資産 | 6,864,910 | 5,496,242 | 1,368,668 |
| 現金預金 | 6,425,957 | 5,172,313 | 1,253,644 |
| 未収入金 | 406,217 | 286,237 | 119,980 |
| 販売用品 | 622 | 1,074 | △ 452 |
| 貸付金 | 15,873 | 20,879 | △ 5,006 |
| 仮払金 | 0 | 9 | △ 9 |
| 前払金 | 16,240 | 15,730 | 510 |
| 資産の部合計 | 42,500,259 | 41,525,139 | 975,120 |

単位：千円

| 科目 | 27年度末 | 26年度末 | 差異 |
|---|---|---|---|
| 負債の部 | | | |
| 固定負債 | 3,501,445 | 3,535,715 | △ 34,270 |
| 長期借入金 | 121,958 | 206,181 | △ 84,223 |
| 退職給与引当金 | 3,379,486 | 3,329,534 | 49,952 |
| 流動負債 | 1,306,391 | 1,038,804 | 267,587 |
| 短期借入金 | 84,222 | 100,133 | △ 15,911 |
| 未払金 | 557,677 | 270,357 | 287,320 |
| 前受金 | 509,989 | 514,548 | △ 4,559 |
| 預り金 | 154,503 | 153,766 | 737 |
| 負債の部合計 | 4,807,836 | 4,574,519 | 233,317 |
| 純資産の部 | | | |
| 基本金 | 45,240,776 | 44,626,721 | 614,055 |
| 第1号基本金 | 42,582,776 | 42,241,721 | 341,055 |
| 第2号基本金 | 0 | 0 | 0 |
| 第3号基本金 | 2,013,000 | 1,740,000 | 273,000 |
| 第4号基本金 | 645,000 | 645,000 | 0 |
| | | | |
| 繰越収支差額 | | | |
| 翌年度繰越収支差額 | △ 7,548,352 | △ 7,676,101 | 127,749 |
| | | | |
| 純資産の部合計 | 37,692,423 | 36,950,620 | 741,803 |
| 負債及び純資産の部合計 | 42,500,259 | 41,525,139 | 975,120 |

## Ⅱ　事業活動収支計算書の年度別財務比率比較について

図表4は、過去5年間において大学を持つ他の法人と本学園との財務比率の比較を行ったものです。（学校法人会計基準の改正で新たに設けられた勘定科目を含む前年度以前の比率は、本学園以外のデータは不明のため記載していません。）

財務比率の中で、特に重要な学生生徒等納付金比率、人件費比率、教育研究経費比率、人件費依存率、経常収支差額比率、教育活動収支差額比率についてグラフ化したものを図表5に示しています。

学生生徒等納付金比率は、77.7％と前年度から0.3％減少しています。これは寄付金比率が0.6％増加したことが要因ですが、依然として高い比率になっており、経常収入が学生生徒等納付金に負っていることがわかります。人件費比率は、60.6％となっており、定年退職者の増減による変動要因がありますが、かなりの高率といえます。このため、教育研究費比率などの他の指標に大きな影響を与えており、人件費比率を下げることが今後の重要な課題といえます。教育研究経費比率は25.5％で前年度から1.1％比率を下げています。

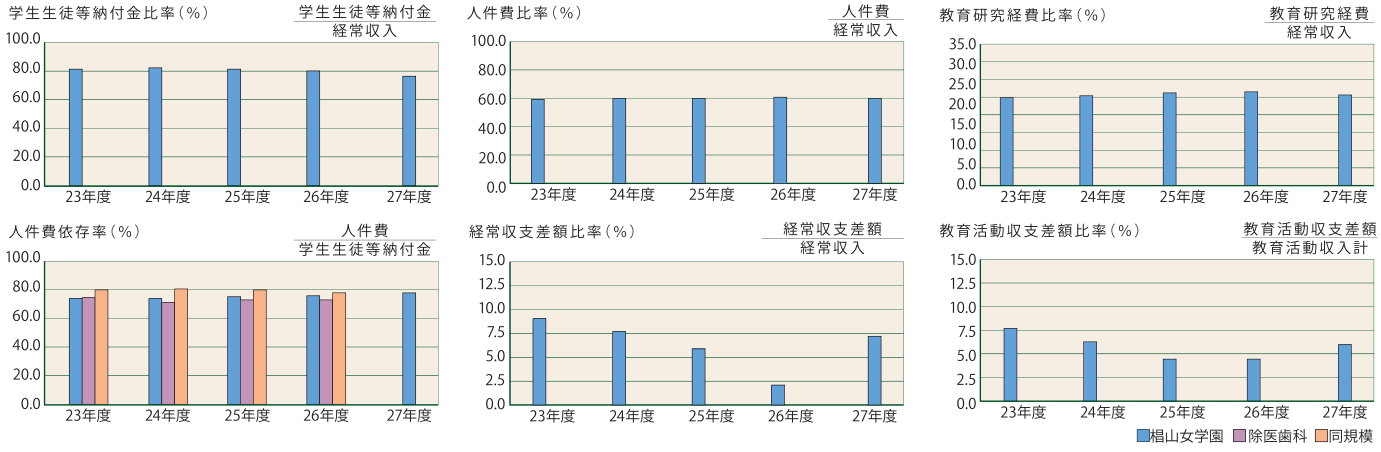
経常収支差額比率は、7.2％と前年度から5.1％増加し、教育活動収支差額比率は、6.0％となっています。

### 図表4 事業活動収支計算書の年度別財務比率比較

| | 比率名称 | 算出式(%) | 評価 | 法人種別 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入構成 | 学生生徒等納付金比率 | 学生生徒等納付金 / 経常収入 | ー | 椙山女学園 | 80.5 | 81.6 | 80.7 | 80.0 | 77.7 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |
| | 寄付金比率 | 寄付金 / 事業活動収入 | △ | 椙山女学園 | 0.6 | 0.7 | 0.5 | 0.6 | 1.2 |
| | | | | 除医歯系 | 2.3 | 2.0 | 2.2 | 3.9 | |
| | | | | 同規模 | 1.8 | 1.5 | 1.6 | 1.4 | |
| | 補助金比率 | 補助金 / 事業活動収入 | △ | 椙山女学園 | 13.1 | 12.5 | 13.0 | 14.2 | 14.5 |
| | | | | 除医歯系 | 12.4 | 12.6 | 12.8 | 12.2 | |
| | | | | 同規模 | 11.2 | 11.1 | 11.1 | 11.5 | |
| 支出構成 | 人件費比率 | 人件費 / 経常収入 | ▼ | 椙山女学園 | 59.7 | 60.5 | 60.6 | 60.7 | 60.6 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |
| | 教育研究経費比率 | 教育研究経費 / 経常収入 | △ | 椙山女学園 | 25.0 | 25.4 | 26.3 | 26.6 | 25.5 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |
| | 管理経費比率 | 管理経費 / 経常収入 | ▼ | 椙山女学園 | 6.3 | 6.5 | 7.2 | 7.0 | 6.6 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |
| | 減価償却額比率 | 減価償却額(教育+管理) / 経常支出 | ー | 椙山女学園 | 11.6 | 11.8 | 12.3 | 12.6 | 12.0 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |
| | 借入金等利息比率 | 借入金等利息 / 経常収入 | ▼ | 椙山女学園 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.0 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |
| | 基本金組入率 | 基本金組入額 / 事業活動収入 | △ | 椙山女学園 | 10.9 | 16.0 | 3.1 | 3.6 | 5.8 |
| | | | | 除医歯系 | 11.6 | 11.7 | 12.1 | 13.6 | |
| | | | | 同規模 | 11.9 | 11.0 | 14.0 | 12.5 | |
| 収支バランス | 人件費依存率 | 人件費 / 学生生徒等納付金 | ▼ | 椙山女学園 | 74.1 | 74.1 | 75.0 | 75.9 | 78.0 |
| | | | | 除医歯系 | 74.4 | 70.9 | 72.4 | 73.3 | |
| | | | | 同規模 | 80.2 | 80.7 | 79.5 | 78.6 | |
| | 経常収支差額比率 | 経常収支差額 / 経常収入 | △ | 椙山女学園 | 9.0 | 7.7 | 5.9 | 2.1 | 7.2 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |
| 教育活動状況 | 教育活動収支差額比率 | 教育活動収支差額 / 教育活動収入計 | △ | 椙山女学園 | 7.7 | 6.3 | 4.4 | 4.4 | 6.0 |
| | | | | 除医歯系 | | | | | |
| | | | | 同規模 | | | | | |

注1)評価欄の評価については、一般的に次のとおりといわれています(「今日の私学財政」より)。 △:高い方が良い ▼:低い方が良い ー:どちらともいえない
注2)法人種別欄については次のとおりです。 除医歯系:医歯他複数学部および医歯単一学部の大学法人を除く。 同規模:学生生徒数 5,000~8,000人の大学法人
注3)基本金組入額は収入からの控除科目であるため、基本金組入率は支出構成指標としています。

### 図表5 事業活動収支計算書の年度別財務比率比較(図表4から一部をグラフ化)




## Ⅲ 平成28年度予算について

平成27年9月理事会で承認された予算編成方針に基づき新規予算を査定し、経常費予算などと合わせて平成28年度予算を編成しました。

### 1 資金収支予算書について(図表6を参照)

収入の部では、学生生徒等納付金収入として80億29百万円を計上しました。平成26年度からの小学校の授業料の値上げ、平成27年度からの幼稚園の保育料の値上げを見込みました。手数料収入は1億60百万円、補助金収入は14億49百万円を計上しました。

支出の部では、人件費支出は62億54万円を計上し、前年度比で1億24百万円の減額としました。教育研究経費支出は、17億38百万円を計上し前年度比で4百万円の減額としました。管理経費支出は、6億81百万円を計上し前年度比で13百万円の増額としました。校舎等の建替え工事が一巡し、施設関係支出は、施設等の保全計画に基づく予算を措置した他、新たに校地を取得するための予算を併せた17億21百万円を計上し前年度比13億77百万円の増額、設備関係支出は、ほぼ前年度並みの3億19百万円を計上しています。

### 2 事業活動収支予算書について(図表7を参照)

教育活動収支差額は55百万円減少の2億68百万円、教育活動外収支差額は16百万円減少の1億5百万円となり、経常収支差額は71百万円減少の3億73百万円となっており経常的な収支バランスは良好となっています。また、特別収支差額は施設などの更新による資産処分差額を見込んで1億50百万円のマイナスとなっています。

これにより、基本金組入前当年度収支差額(旧:帰属収支差額)は、前年度と比較して2億21百万円減少の1億23百万円となり、基本金組入額合計21億43百万円を差し引いた当年度収支差額(旧:消費収支差額)は20億20百万円の支出超過となり、前年度繰越収支差額(平成28年3月18日補正予算)82億73百万円を加えて翌年度繰越収支差額は102億93百万円の支出超過の予算となっています。収支の均衡を図る上で、平成28年度も引き続いて、支出の抑制に努めて、決算時には均衡に近づける努力が必要になります。

## 図表6　平成28年度資金収支予算書（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

単位：千円

| 科目 | | 28年度予算 | 27年度予算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の部 | 学生生徒等納付金収入 | 8,028,541 | 8,065,720 | △ 37,179 |
| | 手数料収入 | 160,187 | 160,385 | △ 198 |
| | 寄付金収入 | 31,011 | 110,253 | △ 79,242 |
| | 補助金収入 | 1,449,399 | 1,409,945 | 39,454 |
| | 資産売却収入 | 300,001 | 1,050,001 | △ 750,000 |
| | 付随事業・収益事業収入 | 180,639 | 174,831 | 5,808 |
| | 受取利息・配当金収入 | 107,321 | 124,203 | △ 16,882 |
| | 雑収入 | 195,972 | 346,721 | △ 150,749 |
| | 借入金収入 | 2 | 2 | 0 |
| | 前受金収入 | 427,865 | 425,107 | 2,758 |
| | その他の収入 | 1,123,686 | 1,281,293 | △ 157,607 |
| | 資金収入調整勘定 | △ 597,052 | △ 717,389 | 120,337 |
| 当年度資金収入合計 | | 11,407,572 | 12,431,072 | △ 1,023,500 |
| 前年度繰越支払資金 | | 5,748,246 | 5,172,313 | 575,933 |
| 収入の部合計 | | 17,155,818 | 17,603,385 | △ 447,567 |

単位：千円

| 科目 | | 28年度予算 | 27年度予算 | 差異 |
|---|---|---|---|---|
| 支出の部 | 人件費支出 | 6,253,947 | 6,378,331 | △ 124,384 |
| | 教育研究経費支出 | 1,738,335 | 1,741,948 | △ 3,613 |
| | 管理経費支出 | 680,594 | 667,987 | 12,607 |
| | 借入金等利息支出 | 2,348 | 3,359 | △ 1,011 |
| | 借入金等返済支出 | 45,590 | 100,136 | △ 54,546 |
| | 施設関係支出 | 1,721,248 | 344,635 | 1,376,613 |
| | 設備関係支出 | 319,492 | 321,251 | △ 1,759 |
| | 資産運用支出 | 1,760,731 | 2,363,655 | △ 602,924 |
| | その他の支出 | 511,051 | 315,040 | 196,011 |
| | ［予備費］ | 100,000 | 100,000 | 0 |
| | 資金支出調整勘定 | △ 436,288 | △ 481,203 | 44,915 |
| 当年度資金支出合計 | | 12,697,048 | 11,855,139 | 841,909 |
| 翌年度繰越支払資金 | | 4,458,770 | 5,748,246 | △ 1,289,476 |
| 支出の部合計 | | 17,155,818 | 17,603,385 | △ 447,567 |

## 図表7　平成28年度事業活動収支予算書（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

単位：千円

| 科目 | | 部門 | 28年度予算額 | 構成比率% | 27年度予算額 | 差異 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 8,028,541 | 79.3 | 8,065,720 | △ 37,179 |
| | | 手数料 | 160,187 | 1.6 | 160,385 | △ 198 |
| | | 寄付金 | 8,619 | 0.1 | 93,007 | △ 84,388 |
| | | 経常費等補助金 | 1,447,133 | 14.3 | 1,389,656 | 57,477 |
| | | 付随事業収入 | 180,639 | 1.8 | 174,831 | 5,808 |
| | | 雑収入 | 195,972 | 1.9 | 346,721 | △ 150,749 |
| | | 教育活動収入計 | 10,021,091 | 98.9 | 10,230,320 | △ 209,229 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 6,144,391 | 60.7 | 6,293,913 | △ 149,522 |
| | | 教育研究経費 | 2,845,605 | 28.1 | 2,860,225 | △ 14,620 |
| | | （内）減価償却額 | 1,107,270 | 10.9 | 1,118,277 | △ 11,007 |
| | | 管理経費 | 763,411 | 7.5 | 753,418 | 9,993 |
| | | （内）減価償却額 | 83,871 | 0.8 | 87,678 | △ 3,807 |
| | | 徴収不能額等 | 1 | 0.0 | 1 | 0 |
| | | 教育活動支出計 | 9,753,408 | 96.3 | 9,907,557 | △ 154,149 |
| | 教育活動収支差額 | | 267,683 | 2.6 | 322,763 | △ 55,080 |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 107,321 | 1.1 | 124,203 | △ 16,882 |
| | | その他の教育活動外収入 | 1 | 0.0 | 1 | 0 |
| | | 教育活動外収入計 | 107,322 | 1.1 | 124,204 | △ 16,882 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 2,348 | 0.0 | 3,359 | △ 1,011 |
| | | その他の教育活動外支出 | 1 | 0.0 | 1 | 0 |
| | | 教育活動外支出計 | 2,349 | 0.0 | 3,360 | △ 1,011 |
| | 教育活動外収支差額 | | 104,973 | 1.0 | 120,844 | △ 15,871 |
| 経常収支差額 | | | 372,656 | 3.7 | 443,607 | △ 70,951 |

| 科目 | | 部門 | 28年度予算額 | 構成比率% | 27年度予算額 | 差異 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 2 | | 2 | 0 |
| | | その他の特別収入 | 33,385 | | 45,134 | △ 11,749 |
| | | 特別収入計 | 33,387 | | 45,136 | △ 11,749 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 183,074 | | 45,028 | 138,046 |
| | | その他の特別支出 | 1 | | 1 | 0 |
| | | 特別支出計 | 183,075 | | 45,029 | 138,046 |
| | 特別収支差額 | | △ 149,688 | | 107 | △ 149,795 |
| 予備費（消費） | | | 100,000 | | 100,000 | 0 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | 122,968 | | 343,714 | △ 220,746 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 2,142,878 | | △ 940,606 | △ 1,202,272 |
| 当年度収支差額 | | | △ 2,019,910 | | △ 596,892 | △ 1,423,018 |
| 前年度繰越収支差額 | | | △ 8,272,993 | | △ 7,676,101 | △ 596,892 |
| 基本金取崩額 | | | 0 | | 0 | 0 |
| 翌年度繰越収支差額 | | | △ 10,292,903 | | △ 8,272,993 | △ 2,019,910 |
| （参考） | | | | | | |
| 事業活動収入計 | | | 10,161,800 | | 10,399,660 | △ 237,860 |
| 事業活動支出計 | | | 9,938,832 | | 9,955,946 | △ 17,114 |

注）構成比（%）は経常収入（教育活動収入計＋教育外活動収入計）又は経常支出（教育活動支出計＋教育外活動支出計）を100とした比率です。

# 学校法人会計の基礎知識

学校法人は、一般の営利企業と異なり、教育研究活動を永続的に進展させていくことを前提とした公共性の強い法人です。そのため、会計面でも、資本金という概念はなく、学校法人会計特有の基本金という概念が用いられています。学校法人の会計については、「学校法人会計基準（文部科学省令、以下「基準」という。）」の規定に基づき、監査や会計報告を行うことになっています。報告のために、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の三表の作成が義務付けられています。

### 資金収支計算書

資金収支計算書は、企業会計のキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）の諸活動に対応する全ての収支内容を明らかにするとともに、その年度の諸活動に関係はないけれども、当該年度中に現金での収支があった全ての内容を明らかにするためのものです。資金収支計算では、まず当該年度の活動に関する収支及び当該年度に関係のない現金収支（前受金収入や前払金支出）を全て合計し、そこから当該年度に実際には現金の動きのなかったもの（未収入金収入や未払金支出等）を差し引くという流れで計算を行います。なお、資金収支計算書の「支出の部／翌年度繰越支払資金」は当該年度末の貸借対照表「資産の部／現金預金」と一致することから、資金収支計算書は貸借対照表の現金預金の動きを表しているといえます。

### 事業活動収支計算書

平成27年度から従来の消費収支計算書は「事業活動収支計算書」と名称を変えて区分経理が導入され、収支は経常的なもの（経常収支は、さらに「教育活動」と「教育活動外」に区分されます。）と臨時的なもの（特別収支）に区分され、経常的・臨時的それぞれの収支状況を把握することができるようになりました。また、代表的な会計用語である「帰属収入」は「事業活動収入」に、「消費支出」は「事業活動支出」と表している他、従来の「帰属収支差額」を「基本金組入前当年度収支差額」として基本金組入れ前の収支状況も表示することになっています。

### 貸借対照表

その会計年度末（3月31日）時点における財産の状態（過年度からの累積）を前年度と対比して明らかにするもので、一定時点での学園の財政状態を示しています。科目としては、資産の部とその資金調達源を表す負債の部（借入金等）・純資産の部を対比させる形で表示します。事業活動収支計算での基本金組入額は、基本金の部へと蓄積されていきます。

### 「基本金」「基本金組入額」について

学校法人は、その諸活動の計画に基づき、校地校舎等維持すべき資産の更新・拡充に必要な資金を基本的に自前で用意しなければならず、それが維持できているかを財務的に把握する仕組みとして、維持すべき資産相当の金額を差し引いて収支差額を計算する基本金制度を採っています。

第1号基本金から第4号基本金まであります。

第1号基本金：学校法人が設立当初に取得した固定資産（土地・建物・設備（機器備品や図書等））で教育の用に供されるものの価額又は新たな学校の設置・既設の学校規模の拡大・教育の充実向上のために取得した固定資産の価額です。

第2号基本金：学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模拡大・教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額です。

第3号基本金：基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額です。この運用により生じた果実を各種奨学金などの原資としています。

第4号基本金：恒常的に保持するとして文部科学大臣の定める額で、1年間の支払に要する額の12分の1の額となります。

企業における資本金は出資者である株主の持分といえますが、基本金は基準で定められた一定の資産を学校法人自らが永続的に留保する金額であり、誰にも持分というものはありませんし、いったん組み入れた基本金は、一定の条件を満たさないと取り崩すことはできません。

### 「基本金」と「基本金引当資産」

貸借対照表の基本金は、同表資産の部に記載されている資産のうち自己資金によって購入されたものがいくら分あるかということを表しています。一方、資産の部／特定資産には「第2号（第3号）基本金引当資産」というものがあり、これらはそれぞれ基本金の部の第2号基本金及び第3号基本金の資金的な裏付けとなる積立預金などのことです。本学園でも第2・3号基本金と同額の引当資産をそれぞれ保有し、基本金組入れを行う際は基本金と同額の資金を引当資産に増額しています。ちなみに、第1号基本金は資産の部の有形固定資産／土地・建物・備品・図書などに主に対応し、第4号基本金（運転資金額）は流動資産／現金預金の中に確保されています。

# GAKUEN NEWS 学園ニュース

学園創立111周年記念式典・祝賀会
新任小学校長紹介
保育園開設1年を振り返る
椙山女学園 平成27年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項・学園規定の変更
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

## 学園 第34回椙山フォーラム「メタボ予防の新たな展開」を開催しました

6月11日（土）に、第34回椙山フォーラム「メタボ予防の新たな展開」を開催し、204名の方々にご参加いただきました。

はじめに、香川大学副学長で同大学医学部細胞情報生理学教授の徳田雅明氏が、「内臓脂肪症候群」とも呼ばれるメタボリックシンドローム（以下「メタボ」）の大きな要因となっている、インスリンの働きの不足に焦点をあてて、発症の仕組みや予防について説明されました。炭水化物、糖質、脂質の摂り過ぎを防いで血糖値が空腹時に下がる状態を作り、インスリンを分泌する膵臓を休ませることがメタボ予防につながることを説明されました。また、砂糖に代えてカロリーゼロの機能性糖質「希少糖」を活用することで、血糖値の上昇や内臓脂肪の蓄積を抑える効果があることをお話しされました。

次に、本学生活科学部教授で椙山女学園食育推進センター長の内藤通孝氏は、若者にとって身近なハンバーガーとコーラという組み合わせを例に、脂質と清涼飲料水によく含まれている果糖を同時に摂取すると、食後の脂質代謝が遅れ、動脈硬化を促進する危険因子である食後中性脂肪の高い状態が長引くこと、それを繰り返すことは、将来、メタボや動脈硬化発症に繋がることを、わかりやすく説明されました。

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター栄養管理部、臨床栄養主任・臨床研究主任の木下かほり氏は、メタボ予防の食事についてお話しされました。肥満や高血糖などを防ぐために、寝る前2時間以内の食事や、間食、糖分の多い清涼飲料水を摂り過ぎないことや、高血圧を防ぐために、だしや香辛料、香味野菜をうまく活用したり、食べる直前に味をつけるなど、減塩の工夫についても説明されました。

参加者からは、「希少糖や、中性脂肪と糖の食べ合わせなど、知らなかったことを知る機会となった。」などの感想が寄せられ、新たな知見を得られたようです。

## 学園 平成28年度第1回人間講座を開催

5月26日（木）、平成28年度第1回人間講座（人間論シリーズ4 人間の発達『やっかいな2歳児』）を開催しました。講師は、椙山女学園大学看護学部教授、学長補佐である後藤宗理氏です。

まず初めに後藤講師は、2歳児は自分の意思で歩き回ることが可能となり、自己有能感が生まれ、自己主張をすることが多くなると説明しました。しかしこの変化は子どもの成長過程で必要不可欠であり、周囲の大人はこの時期にやって良いこと、悪いことを学ばせる必要があると説明しました。

次に発達理論上での2歳児の位置づけについて、発達心理学の2人の専門家、エリクソンとピアジェの理論をもとに説明しました。また、子どもにとって「安心・安全基地」の場を作ることが養育者との信頼関係を築く上で重要であると解説しました。さらに、ウォルター・ミッシェルによる「マシュマロテスト」という実験をもとに、子どもの自己統制能力について説明しました。

最後に、気長に子どもの成長を見守ることや、国を挙げての教育が必要であり、「やっかいな2歳児」は長い人生の一コマであると考え、子どもと向き合っていくことが大切であるとまとめました。

## 学園 揚輝荘企画展「文教地区としての城山・覚王山～椙山女学園の歴史～」

椙山歴史文化館・山添展示室では、学校の歴史にとどまらず、学校と地域が共に発展してきたその跡を辿る観点から展示を行っていますが、このたび覚王山の揚輝荘から椙山女学園の歴史を主体とする企画展の依頼があり、7月から9月までの3ヶ月間にわたり「文教地区としての城山・覚王山～椙山女学園の歴史～」と題した企画展を開催しています。

揚輝荘は、大正から昭和初期にかけて松坂屋の初代社長である第15代伊藤次郎左衛門祐民の別荘として覚王山の丘陵に建設されたもので、現在は周辺の開発等で北園と南園に分れています。今回の企画展は、南園にある聴松閣（名古屋市指定有形文化財）の2階の展示室を3部屋使用しています。一つの部屋では、椙山の小学生によるタイの踊りを披露した映像公開と中学生による城山・覚王山地区のフィールドワークの成果発表の展示を行っています。

残りの二つの部屋は、「城山・覚王山地区の歴史」と「椙山女学園の歴史」の展示室となっています。山添展示室の年表の再現、初代山添校舎模型や裁縫雛形の展示、前畑秀子氏のコーナーなどがあります。

## 学園 全国初！ディズニーキャラクターとコラボしたオリジナルルーズリーフが誕生

椙山女学園オリジナルグッズとして、ディズニーの人気キャラクター、ミニーマウスをデザインしたノートに引き続き、ルーズリーフが完成しました。

ディズニーキャラクターとコラボしたオリジナルルーズリーフの制作、販売は全国の大学で初めての試みとのこと。ルーズリーフは、B5サイズ、26穴、1袋50枚入り250円（税込）で4月1日（金）から各キャンパスの売店で販売されています。グリッド部分にはミッキーマウスのデザインが隠れているなど、随所に楽しい工夫やデザインが施されています。

## 大学 社会連携センター、スタート

社会連携センターが、平成28年4月からスタートしました。

椙山女学園大学ではこれまでも、自治体や企業などと連携して、さまざまな研究や教育活動を行い、地域の活性化や商品開発などに取り組んできましたが、大学と地域・社会との連携は、今後益々重要になることから、その活動を支援及び推進するため、エクステンションセンターを改組し、新たに社会連携センターを設置しました。

社会連携センターは、地域・社会との連携活動の総合窓口となる他、連携に関する事務的な支援を行うと共に、本学の社会連携活動の情報をセンターで集約し、これらを広く社会に発信することで、新たな社会連携の機会を生み出していきます。地域・社会で教職員や学生が活躍する場面を増やすことにより、地域における本学の存在感を更に高めていきたいと考えています。

なお、資格取得や生涯学習のための講座である「椙山オープンカレッジ」も、社会連携センターで引き続き運営していきます。

## 大学 平成28年度名誉教授称号記授与式・名誉教授の会

5月25日（水）、学園センター7階にて平成28年度「名誉教授称号記授与式」を開催いたしました。今年度は、高阪謙次元教授、戸部栄一元教授、冨田明美元教授、山中市衛元教授、黒栁晴夫元教授および武長脩行元教授の6人が、名誉教授として推薦・承認され、森棟公夫学長から名誉教授称号記が授与されました。これにより本学の名誉教授は42名（故人を除く）となりました。

引き続き、学園センター4階会議室にて「名誉教授の会」を開催。出席者は、名誉教授20名、学内関係者12名でした。森棟公夫学長の挨拶に続き、新しく名誉教授となられた高阪謙次元教授、戸部栄一元教授、冨田明美元教授、山中市衛元教授、黒栁晴夫元教授および武長脩行元教授のご挨拶が行われました。

その後昼食を挟み、米田公則学長補佐から椙山女学園大学憲章（案）及び教養教育の全学共通化について報告されました。

会は、後藤宗理学長補佐の挨拶により閉会しました。

長年にわたり、本学の発展のために寄与された先生方のお元気な姿に接することができた一日となりました。

学園創立111周年記念式典・祝賀会
新任小学校長紹介
保育園開設1年を振り返る
椙山女学園 平成27年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項、学園規定の変更
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

# GAKUEN NEWS 学園ニュース



## 大学 平成28年度社会連携の取り組み事例紹介

社会連携センターの設置で大学としての社会連携の推進や支援の環境が整う中、学内では社会連携の取り組みがさらに活発化しています。中でも昨年度まで現代マネジメント学部が日本航空株式会社(JAL)・旅行会社(本年度は株式会社JTB国内旅行企画)との産学連携プロジェクトとして実施していた旅行商品開発は本年度、全学的に募集をかける形に変更。現代マネジメント学部のほか、生活環境デザイン学科や国際コミュニケーション学部からも提案応募があり、広がりを見せています。

現在、社会連携センターで取りまとめた取り組み状況は以下の通りです。(2016年度時点での継続案件、主に研究・教育活動で公表可能事例のみを掲載)

| 学部 | 概要 |
|---|---|
| 生活科学 | 一丸ファルコス株式会社との共同研究<br>名古屋三越星ヶ丘店食品売り場のレシピカード制作<br>愛知県東栄町受託研究「三遠南信自動車道東栄IC開通に伴うIC周辺整備構想検討事業」<br>URと椙大の包括協定に関する事業実施<br>西山商店街空き店舗での学生による起業プロジェクト<br>テキスタイルメーカーとのデザイン・ブランディング |
| 国際コミュニケーション | 名古屋総合市場の英語版リーフレットの作成 |
| 人間関係 | 全国教室ディベート連盟主催事業に参画<br>日進市ハーモニーフェスタに学生と共に参画<br>日進市大学祭に学生と共に出展<br>東郷町映画会との連携事業<br>日進市特別支援教育巡回指導<br>臨床心理相談室において発達障害に関する日進市の公立小中学校の保護者相談会 |
| 文化情報 | AI-KOTOBAを利用したアクティブ・ラーニング手法の構築(株式会社セットジャパンコーポレーションとの共同研究)<br>グループトークアプリを活用した離乳食レシピカードの作成(日進市との大学連携共同事業)<br>地域の仏像を紹介するWEB・映像制作(愛知県稲沢市(教育委員会)との社会連携)<br>東山動植物園の魅力を発信するWEB・映像制作(名古屋市東山動植物園との社会連携)<br>名古屋市政広報映像の企画・制作・発信(名古屋市広報課との社会連携)<br>東海の建築アーカイブの制作(日本建築学会東海支部との社会連携)<br>東日本大震災・映像記録の企画・制作、「絆の駅」館内上映(石巻日日新聞社との社会連携)<br>東日本大震災・映像記録の取材、関連の共同研究(東北福祉大学との社会連携) |

| 学部 | 概要 |
|---|---|
| 現代マネジメント | 名古屋市消費生活フェアへのゼミの出展<br>名古屋市「なごやHAPPYタウン」へのゼミの出展<br>(株)おとうふ工房、(株)トーカンとの連携によるスイーツ開発<br>公益財団法人松江市観光振興公社との連携<br>化粧品会社との連携<br>星ヶ丘三越の食品売り場の見学とデパ地下マップの作成、オープンキャンパスでの発表<br>名古屋トヨペットのショールームの見学とオープンキャンパスでの発表<br>株式会社グラフィッコとの絵本制作プロジェクト<br>株式会社CLUB ANTIQUEとの商品開発<br>日本航空株式会社、株式会社JTB国内旅行企画との旅行商品開発<br>SMBCコンシューマーファイナンスとの連携事業<br>名古屋税理士協会と連携した租税教育講座 |
| 教育 | 茨城県常陸太田市立里美小・中学校との共同研究(ICTを利用した授業研究)<br>茨城県日立市立河原子中学校との共同研究(ICTを利用した授業研究)<br>NPO法人「ハンモックツリー(旧　幼い難民を考える会　あいち)」との連携<br>NPO法人「グリーンウッド自然体験教育センター」との連携<br>オーストラリアのシドニー市の公立幼稚園・保育園(7園)と公立小学校(3校)と連携し、1週間の実習実施 |
| 看護 | 名古屋市・日進市との連携講座「健康を科学する」の開催 |

## 大学 2015年度卒業生 国家試験合格結果および教育学部 教員・保育職採用試験結果

### 国家試験合格結果

5月10日(火)に管理栄養士国家試験の合格者が発表され、2015年度卒業生の国家試験結果がすべて出揃いました。(以下、2016年3月卒業生数値を掲載)

2015年度国家試験の結果で注目されるのは人間関係学科の「社会福祉士」。昨年度も高い合格率となりましたが、2015年度は合格率88.9%(合格者16名/受験者18名)と全国平均26.2%を大きく上回り、全国の私立大学の中でトップの合格率となりました。

看護学部は看護師国家試験99.0%(合格者104名/受験者105名)、保健師国家試験100%(合格者15名/受験者15名)と昨年に引き続き高い合格率の結果になりました。看護学部は就職率も2年連続100%となるなど、好調な結果が続いています。また、生活科学部 管理栄養学科では管理栄養士国家試験合格率が90.4%(合格者104名/受験者115名)となり、安定した結果を出し続けています。

大学では各学部でのサポートの他、社会連携センター(4月までエクステンションセンター)にて専門講師による試験対策講座を開講。学生の着実な国家試験合格を支援しています。

### 教育学部 教員・保育職採用試験結果

教育学部では小学校・中学校・高等学校の教員採用試験合格者数は実人数計算で合計60名、延べ人数計算で84名となり、実人数計算で希望者における教員採用試験現役合格率は73.2%(60名/82名)の結果となりました。この数値は教育学部開設以来、最も高い結果となり、全国トップクラスの結果です。

また、公立保育職の合格者数は36名(実人数)となり、公立保育職の希望者に対する合格率は94.7%(36名/38名)となりました。また、保育職希望者による保育職への就職内定率(公立・私立)は98.3%(59名/60名)となっています。教育学部の手厚いキャリアサポートプログラムと学生たちの不断の努力により、教員・公立保育職とも高い合格率を達成しています。

**資格取得実績**

**看護師**
第105回 看護師 国家試験合格率
99.0%
合格者104名／受験者105名
受験資格取得者全員が受験

**保健師**
第102回 保健師 国家試験合格率
100%
合格者15名／受験者15名
受験資格取得者全員が受験

**社会福祉士** 全国私立大学合格率No.1
第28回 社会福祉士 国家試験 合格率
88.9%（全国平均26.2%）
合格者16名／受験者18名
受験資格取得者19名

**管理栄養士**
第30回 管理栄養士 国家試験合格率
90.4%（全国平均44.7%）
合格者104名／受験者115名
卒業生数(受験資格取得者)116名

**教員・保育職実績** 教育学部 全国トップクラスの合格率！

**教員採用試験**(小学校・中学校・高等学校)
現役合格率
73.2%
合格者60名／志望者82名
教員志望者における割合(海外の学校含む)

**公立保育職**(幼稚園教諭・保育士)
現役合格率
94.7%
合格者36名／志望者38名
保育職志望者における割合

2016年3月卒業生データ

## 中学校・高等学校 文部科学省「スーパー食育スクール」に指定されました

中学校・高等学校が、全国で12事業（12校）のうちの1つとして文部科学省 スーパー食育スクールに本年度指定されました。

スーパー食育スクール事業とは、小・中・高等学校等が大学や企業、生産者などと連携し、食育を通じた学力向上、健康増進、食文化理解など食育の多角的効果について検証・普及啓発することで、食育の充実を図るものです。

本校のテーマは「食と健康」、学校課題は「和食のすすめ～若年から『健康寿命を延ばす食習慣』を身につける～」。

「一汁三菜」を基本とする和食は、野菜や魚介類、植物性たんぱく質を摂取することが多く、コレステロールも上がりにくいため、欧米の食習慣に比べ、生活習慣病予防に効果的とされています。大学の管理栄養学科や市中央卸売市場北部市場、東海農政局など、外部団体と連携した特別授業を行い、和食を中心とした栄養バランスの良い食習慣を身につけ、健康寿命を延ばすための知識や技術を段階的に学びます。

## 高等学校 テニス部が第38回全国選抜高校テニス大会で準優勝を勝ち取りました

平成28年3月20日（日）～26日（土）、博多の森テニス競技場（福岡県福岡市）で行われた第38回全国選抜高校テニス大会で、高等学校テニス部が団体戦で準優勝を勝ち取りました。

2回戦が初戦となった今大会。試合には卒業生や保護者が応援に駆けつけ、全国の強豪校相手に選手と応援団がひとつとなり必死に戦い抜きました。厳しい試合が続きましたが、重要なポイントは確実に決め、選手らは試合ごとに成長しながら決勝へ初の進出を果たしました。決勝の相手は、同じく初の決勝進出となった野田学園高等学校（山口県）。試合は総力戦となり、選手は最後の最後まであきらめることなくボールを追いかけましたが、一歩及ばず準優勝の結果となりました。また、伊達摩紘さん（高1）は8月に中国で行われる「日中韓ジュニア交流競技会」の出場権を獲得し、大きな成果を手にした大会となりました。

テニス部では、4月からインターハイに向けての試合が開始。同大会で負けた悔しさを胸に「来年こそは全国制覇！」と練習に励んでいます。

【団体出場メンバー】 高校2年：大嶋真理子　後藤志帆　長谷川なつみ　高校1年：伊達摩紘　稲垣綾乃　伊藤日和　木下夏芽　鈴木仁千佳　池田優花

## 中学校 学校説明会、オープンスクールを開催しました

### 学校説明会　開催日：5月14日（土）

学校説明会には357組が参加。教育内容の紹介では、今年度より開始されたAll Englishでの入学生向け英語講座や今年度からスタートする英語学習の国内研修、例年実施されている「English Program」など国際・英語教育への注力が紹介された他、2020年から導入が予定される大学入試改革の「新テスト」問題に対する本校の姿勢や取り組みが説明されました。また、本校の大きな特徴である「調べ学習」を重視した図書館教育や生徒全員で取り組む生徒会活動について紹介。生徒会活動では、生徒が活動の様子をプレゼンテーションし、自主・自立を重んじる教育の成果の一端をご覧いただきました。

### オープンスクール　開催日：6月5日（日）

オープンスクールには591組が参加。正門で今年度に入学したばかりの1年生が小学生や保護者を笑顔でお出迎えし、受付や校舎の案内役を元気いっぱいに務めました。本年度は参加型の授業体験やクラブ体験の他、生徒会企画の「みんなとつくる紙コップアート」や制服試着コーナー、国際交流や総合学習の展示、学校生活や入試に関する個別相談会など、本校の教育をより詳しく理解いただくプログラムを実施。ホームメイキングクラブや新体操クラブでの体験では、整理券を配るほどの人気ぶりとなりました。さまざまなプログラムを通して、参加者の方々に1日椙中生を楽しんでいただきました。

# GAKUEN NEWS 学園ニュース

学園創立111周年記念式典・祝賀会
新任小学校長紹介
保育園開設1年を振り返る
椙山女学園 平成27年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項・学園規定の変更
人事・頌彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

## 小学校 学校説明会を開催しました

6月18日(土)、「学校説明会」が開催され、128組304名の方々が来校されました。

説明会では、はじめに授業参観の時間を設け、デジタル教科書やタブレット型コンピューターを活用した授業やネイティブ講師による英語授業など本学の特長的な授業の内容と共に、児童たちが真剣に授業に取り組む様子をご覧いただきました。

授業参観後には、全校児童が合唱を披露。「花は咲く」「Oh, Happy Day」の2曲を元気よく歌いました。「Oh, Happy Day」のクライマックスでは、全校児童が手拍子をとりながら歌い、迫力満点の歌声に会場から大きな拍手をいただきました。保護者の方への学校説明では、5・6年生が自作のプレゼンテーションにより「学校行事」「自校教育」を発表しました。児童参加型の学校説明会は、来場者のアンケートでも高い評価をいただきました。

森校長は「一人ひとりが自分で考える、自分で行動する、自分で判断することを何よりも大切にしています。そのために本物に触れる活動を重視しています」と教育方針を紹介。本校の教育方針を児童や児童の生活を通して、より深く理解いただく説明会となりました。

## 幼稚園 親子で楽しい運動遊び「親子ふれあいDAY」を開催しました

6月4日(土)に「親子ふれあいDAY」を開催しました。

年少組は各保育室で、親子で運動遊びを楽しみました。子どもたちが自分の力でお父さん、お母さんの肩のところまで登ったり、お父さんたち全員が四つんばいになり、長いトンネルになった下をみんなで並んでくぐったりして、笑顔いっぱいで過ごすことができました。

年中、年長組は中学・高校の和風館で体育講師の長谷川先生のご指導の下、運動遊びを行いました。子どもが床に手をついて、その足をお父さんたちが持ってワニ歩きのように進んで行ったり、えび反りのようになった子どもの手足を持ってぐるんぐるんと振り回したり、とダイナミックな動きも多く、大きな歓声が上がっていました。

気軽に取り組める内容でしたので、ご家庭でも親子で楽しんでいただけるのではないかと思います。

## 保育園 ～楽しいね～　どろんこ遊び

お天気のよい日、子どもたちは、保育園の園庭でどろんこ遊びを楽しみます。

どろんこ遊びの魅力は、砂と水を混ぜ合わせたどろどろした感触を身体の感覚を通して得る心地よさや開放的な雰囲気を作り出し共感関係が生まれやすいところにあります。また、簡単に多様な変化が起こるので、その結果、何度も何度も繰り返し、試しながら夢中になって遊びます。

園庭に子どもたちの笑顔と歓声が広がります。どろんこ遊びをしながら、面白い発見をした時は、保育士に「見て、見て」と言葉や仕草で知らせます。保育士は、子どもに微笑みかけたり、言葉をかけたりします。子どもたちは、満足し、ますますどろんこ遊びを楽しみます。

# 学園 マスコミ登場一覧（4月～6月）

| 掲載日 | 所属 | 項　目 | 媒体 |
|---|---|---|---|
| 4月6日 | 大学 | 岡村孝子さん音楽大使 あいちサポーターズ任命へ | 新聞(中日) |
| 4月8日 | 大学 | 農産物輸出　キョート活用　椙山女学園大・熊沢さん懸賞論文で優秀賞/現代マネジメント学科　熊沢有里さん(3年生) | 新聞(中日) |
| 4月9日 | 大学 | 震災5年から1ヶ月急激に減る報道/文化情報学部　栃窪優二教授 | 新聞(毎日) |
| 4月12日 | 大学 | 授業ウォッチ　人間関係を学ぶ　イベントで「おもてなし」/人間関係学部 藤原直子教授、人間関係学科 今野沙紀さん(4年生) | 新聞(中日) |
| 4月18日 | 大学 | 虹のパレット　愛知の素晴らしさPR/岡村孝子さん(大学中退) | 新聞(毎日) |
| 4月19日 | 大学 | トヨタ・マスタープレイヤーズ・ウィーン　マーラー第9、聴衆一体/教育学部　渡邉康准教授 | 新聞(中日) |
| 4月27日 | 大学 | 新音楽監督迎えた名古屋フィル　今こそ内外に力示せ/教育学部　渡邉康准教授 | 新聞(朝日) |
| 4月29日 | 大学 | 春の叙勲4115人受章/小和田正さん(元文化情報学部教授) | 新聞(朝日、日経) |
| 4月29日 | 大学 | 春の叙勲1501人が受章/奥村潤子さん(人間関係学部卒業生) | 新聞(朝日、日経) |
| 5月1日 | 学園 | 朝ドラ目指し　3市連携　名古屋、岐阜、和歌山県橋本市　五輪金　水泳前畑さん主人公<br>ゆかりの地で署名活動/前畑秀子さん(椙山第二高等女学校卒業生・学園職員) | 新聞(読売) |
| 5月2日 | 大学 | 東海地区大学女子軟式野球リーグ春季　椙山女学園大学13-3皇學館大學/軟式野球部 | 新聞(中日) |
| 5月2日 | 高等学校 | 県高校総体ソフトボール名北予選　聖霊9-0椙山女学園/ソフトボール部 | 新聞(中日) |
| 5月7日 | 大学 | 被災地支援のシステム構築を/文化情報学部　栃窪優二教授 | 新聞(毎日) |
| 5月9日 | 高等学校 | 県高校総体体操名北・名南・知多予選　【名北2部　個人】　2位/加藤梨穂さん(2年生) | 新聞(中日) |
| 5月9日 | 高等学校 | 県高校総体新体操名北・名南・知多予選　【名北　団体】1位/新体操部 | 新聞(中日) |
| 5月9日 | 高等学校 | 県高校総体名北予選バレー　【女子　準々決勝】　中部大春日丘2-0椙山女学園/バレー部 | 新聞(中日) |
| 5月9日 | 高等学校 | 県高校総体女子サッカー　【予選リーグ】　椙山女学園1-0岡崎商業/サッカー部 | 新聞(中日) |
| 5月10日 | 大学 | 住めば都　ニュータウン　割安家賃/活性化に一役　愛知・中部大生　お年寄りと交流/生活環境デザイン学科 | 新聞(中日) |
| 5月11日 | 中学校 | テニス　県中学生選手権大会　団体女子　【準決勝】　椙山女学園3-0南山　【決勝】　椙山女学園3-0金城学院/テニス部 | 新聞(読売) |
| 5月11日 | 大学 | 茶臼山　パワースポット!?　山根教授、地磁気を調査/人間関係学部　山根一郎教授 | 新聞(中日) |
| 5月15日 | 大学 | 三代舞踊団ジュニア組V2 全国ジャズダンス中高生組3位、一般2位/国際言語コミュニケーション学科 小藤有理さん(2年生、米国留学中) | 新聞(中日) |
| 5月16日 | 大学 | 虹のパレット　夜の散歩で「謎の生物」に再会/岡村孝子さん(大学中退) | 新聞(毎日) |
| 5月17日 | 大学 | 東海学生卓球春季リーグ最終日　静岡大4-0椙女大　南山大4-0椙女大<br>【最終順位】　女子3部　6位　【入れ替え戦】　椙女大(3部)4-2愛教大(4部)/卓球部 | 新聞(中日) |
| 5月19日 | 学園 | 椙山フォーラム「メタボ予防の新たな展開」/生活科学部　内藤通孝教授 | 新聞(中日) |
| 5月19日 | 大学 | 愛知県の女性社長全国44位にとどまる　金城学園大学が出身大学トップ | 新聞(産業) |
| 5月19日 | 大学 | 参院選「投票行く」/表現文化学科　林萌乃さん(1年生)、看護学科　永田有梨沙さん(1年生) | 新聞(読売) |
| 5月23日 | 大学 | 東海地区大学女子軟式野球リーグ春季　椙山女学園大15-2愛知医療学院短大　中京大8-0椙山女学園大 【順位】 3位/軟式野球部 | 新聞(中日) |
| 5月23日 | 高等学校 | 県高校総体女子サッカー　【準々決勝】　安城学園3-1椙山女学園/サッカー部 | 新聞(中日) |
| 5月24日 | 大学 | 外国船乗員を観光案内　学生ガイド　名古屋PRに一役　就職念頭　"世界"と触れる/文化情報学科　若松紋巳さん(3年生) | 新聞(中日) |
| 5月26日 | 大学 | 作家・堀田あけみさん　作家として大人扱い/国際コミュニケーション学部　堀田あけみ教授 | 新聞(毎日) |
| 5月27日 | 学園 | 椙山女学園食育推進センター講演会「メタボ予防の新たな展開」 | 新聞(毎日) |
| 5月28日 | 大学 | 公開講演会「人間関係をめぐる生きづらさ-現代の若者への処方箋」 | 新聞(中日) |
| 5月28日 | 大学 | PRラストスパート　大学生　全力でおもてなし　中部空港　英語駆使、記者ら案内 | 新聞(読売) |
| 5月30日 | 大学 | 市場を英語で紹介/国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科 | 新聞(毎日) |
| 5月30日 | 大学 | 法に「空白」期間/現代マネジメント学部　浪花健三教授 | 新聞(読売) |
| 6月3日 | 中学校 | 大垣出身・辻さん優勝　国際音楽コン　バイオリン部門/辻彩奈さん(中学校卒業生) | 新聞(毎日、中日) |
| 6月4日 | 大学 | 新聞社の映像報道に期待/文化情報学部　栃窪優二教授 | 新聞(毎日) |
| 6月6日 | 高等学校 | バレーボール　県高校総体バレー　半田商2-0椙山女学園/バレー部 | 新聞(中日) |
| 6月9日 | 大学 | 我が子の未来信じ　決めた覚悟　障害重き子よ。ともに歩まん、険しき道を<br>作家・椙山女学園大学教授　堀田あけみさん/国際コミュニケーション学部　堀田あけみ教授 | 新聞(朝日) |
| 6月10日 | 高等学校 | 遼河さん初来訪　抱負　本誌イメージキャラクター/遼河はるひさん(中学・高校卒業生) | 新聞(中日) |
| 6月10日 | 大学 | 自治体活動名称に「JK」あり?　愛知県豊橋市　「女子高生よりしっくり」　市民　「不快感覚える」と物言い/人間関係学部　加藤主税教授 | 新聞(東京) |
| 6月11日 | 高等学校 | 県高校総体体操　(5月29日・日本ガイシスポーツプラザ)　【女子Ⅱ部　団体総合】　1位/体操部 | 新聞(中日) |
| 6月11日 | 高等学校 | 県高校総体体操　(5月29日・日本ガイシスポーツプラザ)　【個人総合】　3位/加藤梨穂さん(2年生) | 新聞(中日) |
| 6月11日 | 大学 | 人間講座「ゴリラがつなぐ森と人」 | 新聞(中日) |
| 6月11日 | 大学 | 被災地の現状　映像で　椙山女学園大・栃窪ゼミ/文化情報学部　栃窪優二教授 | 新聞(毎日) |
| 6月18日 | 大学 | 人間講座「ゴリラがつなぐ森と人」 | 新聞(朝日) |
| 6月20日 | 高等学校 | 72高校の生徒放送技術競う　コンテスト県大会　【朗読】　優良/則武初音さん(3年生) | 新聞(中日) |
| 6月20日 | 高等学校 | 73高校の生徒放送技術競う　コンテスト県大会　【ラジオドキュメント】　優秀/放送部 | 新聞(中日) |
| 6月20日 | 大学 | 虹のパレット 人を前に進める言葉 紡ぎたい/岡村孝子さん(大学中退) | 新聞(毎日) |
| 6月20日 | 大学 | 私の1冊　あなたの1冊　魅力伝え合う　知的好奇心そそる　高校生ビブリオバトル2016 | 新聞(読売) |
| 6月24日 | 大学 | 住所変更なお壁に　新制度の利用　不透明/藤田怜央菜さん　(生活環境デザイン学科1年) | 新聞(中日) |

※この一覧以外にも、授業、クラブ活動等での活躍がたくさん取り上げられています。

# 理事会・評議員会の議題・報告事項（4月～6月）

## 4月 定例理事会（H28.4.28） APRIL

**議題**

・理事長職務代理者の指名等に関する件
・理事の業務に関する件
・椙山女学園資金運用規程に基づく運用責任者に関する件
・椙山女学園履修費等の種類及び額を定める規程の一部改正に関する件
・椙山人間学研究センター規程の一部改正に関する件
・椙山女学園大学附属保育園給与規程の一部改正に関する件
・椙山女学園大学附属保育園非常勤職員就業規則の一部改正に関する件
・人事に関する件
・その他

**報告事項**

1　椙山女学園資金運用規程に基づく運用担当者の指名について
2　椙山女学園大学改革アクションプランについて
3　科学研究費助成事業実地検査の結果について
4　平成28年度入試状況（大学・大学院、高、中、小、幼）について
5　平成27年度就職内定・進路状況について
6　寄付について
7　人事について
8　その他

## 5月 定例理事会（H28.5.20） MAY

**議題**

・平成27年度事業報告に関する件
・平成27年度決算に関する件
・平成28年度資金運用方針に関する件
・購入予定土地の使途に関する件
・椙山女学園大学ベストティーチャー賞受賞者に支給する手当に関する規程に関する件
・幼稚園の募集人員に関する件
・平成29年度募集要項に関する件（高、中、小、幼）
・人事に関する件
・その他
（1）団交要求申し入れ書に関する件

**報告事項**

1　椙山女学園大学ベストティーチャー賞に関する規準について
2　平成28年度科学研究費助成事業交付者一覧について
3　平成27年度エクステンションセンター事業収支報告について
4　寄付について
5　人事について
6　その他

## 6月 定例理事会（H28.6.17） JUNE

**議題**

・文部科学省からの指摘事項への対応に関する件
・椙山女学園大学附属保育園給与規程の一部改正に関する件
・椙山女学園大学附属保育園非常勤職員就業規則の一部改正に関する件
・椙山女学園大学ベストティーチャー賞受賞者に支給する手当に関する規程に関する件
・平成29年度募集要項に関する件（幼稚園）
・人事に関する件
・その他
（1）団交要求申し入れ書に関する件

**報告事項**

1　平成28年度資金運用計画について
2　購入予定土地及び建物を大学の校地・校舎として使用する証明書について
3　寄付について
4　人事について
5　その他

## 5月 定例評議員会（H28.5.25） MAY

**議題**

・平成27年度事業報告に関する件
・平成27年度決算に関する件
・その他

**報告事項**

・その他

# 学園規程の変更

## 5月 5月9日通知分（全2件） MAY

| 表　題 | 区分 | 説　明 | 制改廃日 | 施行日 |
|---|---|---|---|---|
| 椙山人間学研究センター規程の一部を改正する規程 | 一部改正 | 運営委員会の委員に保育園長を加える。 | H28.4.28 | H28.4.28 |
| 椙山女学園履修費等の種類及び額を定める規程の一部を改正する規程 | 一部改正 | 保育園の延長保育料利用料について、名古屋市の指導により、平成28年度から、おやつ代を税込み50円に改める。 | H28.4.28 | H28.4.28 |

## 5月 5月26日通知分（全1件） MAY

| 表　題 | 区分 | 説　明 | 制改廃日 | 施行日 |
|---|---|---|---|---|
| 椙山女学園大学<br>ベストティーチャー賞に関する規準 | 制定 | 椙山女学園大学において教育の質的向上を図り、教育実践に顕著な成果をあげた教員に対し、その功績を表彰することにより、教員の意欲向上と大学教育の活性化を図ることを目的として、椙山女学園大学ベストティーチャー賞に関し、必要な事項を定める。 | H28.5.17 | H28.5.17 |

## 7月 7月1日通知分（全2件） JULY

| 表　題 | 区分 | 説　明 | 制改廃日 | 施行日 |
|---|---|---|---|---|
| 椙山女学園大学附属保育園非常勤職員就業規則の一部を改正する規則 | 一部改正 | 保育園非常勤職員の雇用について、理事長が特に必要と認めた場合は、職種を問わず最初の本学園との雇用開始日から5年を超えて雇用期間を更新することができることとするとともに、非常勤職員の最終雇用年齢にかかる規定を加える。 | H28.6.17 | H28.6.17 |
| 椙山女学園大学附属保育園給与規程の一部を改正する規程 | 一部改正 | 名古屋市の民間社会福祉施設職員給料表、地域手当、期末勤勉手当、住居手当及び通勤手当の改定を受け、関係条文を改める。 | H28.6.17 | H28.6.17 |

# 人事

平成28年7月5日までの人事案件

## 学園

### 解職

| | | |
|---|---|---|
| 食育推進センターセンター員 | 三田　郁穂 | H28.3.31 |

### 任命

| | | |
|---|---|---|
| 予算委員会委員 | 森棟　公夫 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 冨田　明美 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 向井　一夫 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 米田　公則 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 大森　隆子 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 小林　嗣明 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 吉川ひとみ | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 三冨　晃弘 | H28.4.1～H29.3.31 |
| 椙山女学園歴史文化館専門委員会委員 | 椙山美恵子 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 阿部　順子 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 杉藤　重信 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 小倉　祥子 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 宮下　十有 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 見田　隆鑑 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 三木　邦弘 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 佐野　輝明 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 森　昌彦 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 村瀬　輝恭 | H28.4.1～H29.3.31 |
| 椙山女学園食育推進センターセンター員 | 中島　正夫 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 飯田　恵 | H28.4.1 |

### 委嘱

| | | |
|---|---|---|
| 椙山女学園歴史文化館研究員 | 中保　淑子 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 寺社下珠江 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 加藤　雪枝 | H28.4.1～H29.3.31 |
| | 米津　昌子 | H28.4.1～H29.3.31 |

## 大学院

### 大学院担当

| | | |
|---|---|---|
| 教育学研究科修士課程担当 | 中島　正夫 | H28.6.1 |

## 大学

### 解職

| | | |
|---|---|---|
| 現代マネジメント学部現代マネジメント学科主任 | 吉田　良生 | H28.3.31 |

### 名誉教授称号授与

| | | |
|---|---|---|
| （生活）元教授 | 高阪　謙次 | H28.4.1 |
| （生活）元教授 | 戸部　栄一 | H28.4.1 |
| （生活）元教授 | 冨田　明美 | H28.4.1 |
| （人間）元教授 | 山中　市衛 | H28.4.1 |
| （文情）元教授 | 黒柳　晴夫 | H28.4.1 |
| （文情）元教授 | 武長　脩行 | H28.4.1 |

### 任命

| | | |
|---|---|---|
| 椙山女学園大学IR室員 | 加藤　容子 | H28.4.1～H30.3.31 |

### 採用

| | | |
|---|---|---|
| （教育）客員教授（非常勤タイプ） | 林　敏博 | H28.5.1～H29.3.31 |
| （教育）客員教授（非常勤タイプ） | 渡辺　猶 | H28.5.23～H29.3.31 |
| （看護）助手 | 中島奈緒子 | H28.7.5～H28.10.24 |

### 採用（更新）

| | | |
|---|---|---|
| （看護）助手 | 赤井美由紀 | H28.5.1～H29.4.30 |
| （看護）助手 | 吉田　誠史 | H28.7.1～H29.6.30 |

### 補職

| | | |
|---|---|---|
| 現代マネジメント学部現代マネジメント学科主任 | 和久　豊 | H28.4.1～H29.3.31 |

### その他（任命取消）

| | | |
|---|---|---|
| 椙山女学園大学ＩＲ室員 | 小倉　祥子 | H28.3.29 |

### その他（採用取消）

| | | |
|---|---|---|
| （教育）客員教授（非常勤タイプ） | 山本　徹 | H28.4.1～H29.3.31 |

## 高等学校

### 兼務

| | | |
|---|---|---|
| 高等学校教諭兼務 | 金森　俊樹 | H28.4.1～H29.3.31 |
| 高等学校教諭兼務 | 田島　春菜 | H28.4.1～H29.3.31 |

## 中学校

### 兼務

| | | |
|---|---|---|
| 中学校教諭兼務 | 加藤　史 | H28.4.1～H29.3.31 |
| 中学校教諭兼務 | 中村　暢宏 | H28.4.1～H29.3.31 |
| 中学校教諭兼務 | 荒川　尚美 | H28.4.1～H29.3.31 |

## 事務局

### 解職

| | | |
|---|---|---|
| 椙山女学園日進キャンパス防災管理者 | 小林　正典 | H28.3.31 |
| 椙山女学園大学人間関係学部安全運転管理者 | 小林　正典 | H28.3.31 |

### 任命

| | | |
|---|---|---|
| 椙山女学園日進キャンパス防火管理者 | 安藤　賢二 | H28.4.1 |
| 椙山女学園大学人間関係学部安全運転管理者 | 安藤　賢二 | H28.4.1 |
| 図書館課日進図書館担当 | 天野　由貴 | H28.4.1 |

# 顕彰

| | | |
|---|---|---|
| 40年　佐藤　厚子　教育学部 | 25年　米田　公則　文化情報学部 | 15年　影山　穂波　国際コミュニケーション学部 |
| 40年　犬飼　守薫　文化情報学部 | 25年　石川　浩之　小学校 | 15年　笠原　正秀　国際コミュニケーション学部 |
| 35年　加藤　益幹　国際コミュニケーション学部 | 25年　上田　剛裕　管財営繕課 | 15年　中山しい木　高等学校 |
| 35年　佐藤　弘嗣　中学校 | 25年　野田　由紀　管財営繕課 | 15年　大須賀久範　総務課 |
| 35年　木嶋　哲　小学校 | 25年　堀部　和浩　山添キャンパス事務課 | 15年　Robert Patrick Gee　現代マネジメント学部 |
| 35年　松本　美子　文化情報学部事務室 | 25年　松野　高徳　人事課 | 10年　亀井美穂子　文化情報学部 |
| 35年　堀田圭一郎　学務部 | 20年　李　敏子　人間関係学部 | 10年　平野　貴之　財務経理課 |
| 30年　横井　明子　中学校 | 20年　後藤　朋和　高等学校 | 10年　小倉　祥子　人間関係学部 |
| 30年　天野　由貴　図書館課 | 20年　廣田　暁子　高等学校 | 10年　西出　弓枝　人間関係学部 |
| 30年　川合　邦彦　財務経理課 | 20年　上田　範子　人事課 | 10年　山口　雅史　人間関係学部 |
| 30年　仲井　真司　高等学校 | 20年　武田智登世　人事課 | 10年　竹村　祐史　高等学校 |
| 25年　三田　郁穂　幼稚園 | 20年　田中　裕之　学生課 | 10年　藤井　伸子　中学校 |
| 25年　小澤　英二　国際コミュニケーション学部 | 20年　藤田　修　企画課 | 10年　小島　亮　中学校 |
| 25年　藤江　泰男　国際コミュニケーション学部 | 15年　浅田　夏希　総務課 | 10年　荒木希衣子　広報課 |
| 25年　山根　一郎　人間関係学部 | 15年　山田　真紀　教育学部 | 10年　大谷　泰世　教務課 |
| 25年　飯塚恵理人　文化情報学部 | 15年　松原小夜子　生活科学部 | 10年　中井　厚仁　山添キャンパス事務課 |

# 訃報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 旧職員 | 生活科学部教授 | 川岸　舜朗 | H28.5.15 |
| 旧職員 | 生活科学部講師 | 太田　光代 | H27.11.14 |

# NEW FACE ニューフェイス

**看護学部 助手　中島奈緒子**（なかしま なおこ）

成人看護学の助手として就任いたしました中島奈緒子です。約8年間病棟の看護師として学んできた知識や技術をわかりやすく学生さんに伝えていきたいです。よろしくお願いします。

# 役員・評議員・組織

| 役員・評議員 | |
|---|---|
| 理事長 | 森棟 公夫 |
| 学園長 | 椙山 正弘 |
| 理事 | 椙山 正弘　冨田 明美　杉野 明子　川﨑 泰資　重冨　亮<br>向井 一夫　大森 隆子 |
| 監事 | 田村 尚子　兵藤　平 |
| 評議員 | 鈴木 俊道　甲斐 進一　米田 公則　後藤 宗理　星野 優太<br>早川　操　雨宮　勇　小澤 英二　杉藤 重信　二宮 俊博<br>東　珠実　宇土 泰寛　箭野 育子　福永 智子　中島 義秋<br>井上 友幸　佐野 輝明　松原 道晴　横尾 尚子　小林 嗣明<br>吉川ひとみ　加藤 元子　杉野 明子　佐々 雅代　冨田 寛子<br>篠﨑 桂子　伊東 初美　米澤 弘和　篠原 幸子　金子 紀子<br>北村 忠和 |
| 参与 | 椙山 泰生 |
| 顧問 | 椙山美恵子　椙山 孝金 |

| センター長等 | |
|---|---|
| 総合クリエイティブセンター総長 | 森棟 公夫 |
| オープンカレッジセンター長 | 向井 一夫 |
| 学園情報センター長 | 米田 公則 |
| 椙山人間学研究センター長 | 椙山 正弘 |
| 椙山女学園食育推進センター長 | 内藤 通孝 |
| 椙山女学園監査室長 | 江﨑 秀男 |
| 椙山歴史文化館長 | 椙山美恵子 |

| 事務職員（部長級以上） | |
|---|---|
| 事務局長 | 小林 嗣明 |
| 総務部長 | 吉川ひとみ |
| 企画広報部長 | 竹田 浩康 |
| 財務管財部長 | 三冨 晃弘 |
| 学務部長 | 堀田圭一郎 |

## 大学

| 学長、学長補佐 | |
|---|---|
| 学長 | 森棟 公夫 |
| 学長補佐 | 米田 公則 |
| | 後藤 宗理 |

| センター長等 | |
|---|---|
| 図書館長 | 福永 智子 |
| 国際交流センター長 | 塚田　守 |
| 入学センター長 | 山本 昭和 |
| 副入学センター長 | 佐原 弘子 |
| 大学情報教育開発センター長 | 米田 公則 |
| 社会連携センター長 | 向井 一夫 |
| キャリア育成センター長 | 後藤 宗理 |
| 学生相談室長 | 李　敏子 |
| 臨床心理相談室長 | 中西 由里 |

| 研究科長 | |
|---|---|
| 生活科学研究科長 | 内藤 通孝 |
| 人間関係学研究科長 | 田中 節雄 |
| 現代マネジメント研究科長 | 星野 優太 |
| 教育学研究科長 | 早川　操 |

| 生活科学部 | |
|---|---|
| 生活科学部長 | 雨宮　勇 |
| 管理栄養学科主任 | 加藤 昌彦 |
| 生活環境デザイン学科主任 | 橋本 令子 |

| 国際コミュニケーション学部 | |
|---|---|
| 国際コミュニケーション学部長 | 小澤 英二 |
| 国際コミュニケーション学部主任（国際言語コミュニケーション学科担当） | 木村　隆 |
| 国際コミュニケーション学部主任（表現文化学科担当） | 影山 穂波 |

| 人間関係学部 | |
|---|---|
| 人間関係学部長 | 杉藤 重信 |
| 人間関係学科主任 | 吉田あけみ |
| 心理学科主任 | 西出 弓枝 |

| 文化情報学部 | |
|---|---|
| 文化情報学部長 | 二宮 俊博 |
| 文化情報学科主任 | 鳥居 隆司 |
| メディア情報学科主任 | 羽成 隆司 |

| 現代マネジメント学部 | |
|---|---|
| 現代マネジメント学部長 | 東　珠実 |
| 現代マネジメント学科主任 | 和久　豊 |

| 教育学部 | |
|---|---|
| 教育学部長 | 宇土 泰寛 |
| 教育学部主任（保育・初等教育専修担当） | 國井 修一 |
| 教育学部主任（初等中等教育専修担当） | 竹内 聖彦 |

| 看護学部 | |
|---|---|
| 看護学部長 | 箭野 育子 |
| 看護学科主任 | 阪口しげ子 |

## 高等学校・中学校

| | |
|---|---|
| 校長 | 大森 隆子 |
| 高等学校・中学校教頭 | 中島 義秋<br>井上 友幸 |
| 中学校・高等学校教頭 | 佐野 輝明 |

## 小学校

| | |
|---|---|
| 校長 | 森　和久 |
| 教頭 | 松原 道晴 |
| 総務部主任 | 横山 準一 |
| 教務部主任 | 石川 朝子 |
| 研究部主任 | 川野 幸彦 |
| 生活指導部主任 | 石川 浩之 |
| アフタースクール長 | 松原 道晴 |

## 幼稚園

| | |
|---|---|
| 園長 | 横尾 尚子 |
| 教頭 | 飯田　恵 |

## 保育園

| | |
|---|---|
| 園長 | 小林 豊子 |
| 主任保育士 | 松本由美子 |

学園創立111周年記念式典・祝賀会
新任小学校長紹介
保育園開設1年を振り返る
椙山女学園 平成27年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項・学園規定の変更
人事・頭彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

# 平成27年度椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名（50音順）

青木 一誠 様
秋田しず恵 様
浅野 洋子 様
安達 宏記 様
虻川 淳悟 様
天野 英生 様
荒川 彩乃 様
荒木 奈実 様
粟野 里菜 様
粟野 友梨 様
安藤 文博 様
安藤 武弘 様
安藤真千子 様
池山　卓 様
石井美恵子 様
石橋はぢめ 様
伊藤　清 様
伊藤 容弘 様
伊東 初美 様
稲垣 幸一 様
稲垣 淳仁 様
稲垣 幸彦 様
稲熊 定之 様
乾　公昭 様
井上 滋樹 様
今津 浩喜 様
岩瀬 由明 様
岩月 元重 様
上田 美奈 様
内ヶ島有美 様
内海 明博 様
太田 和宏 様
太田 大助 様
太田 高嘉 様
大竹 将人 様
大塚 俊美 様
大塚　勇 様
岡田 光弘 様
岡本 修佳 様
小川 和彦 様
織田 良二 様

小田 敏夫 様
落合 繁樹 様
落合 英二 様
落合 洋子 様
恩田 好雄 様
笠井 絢子 様
笠原 麻衣 様
春日井京子 様
桂山 仙義 様
加藤 裕章 様
加藤 公一 様
加藤 芳昭 様
蟹江 啓城 様
神谷由美子 様
河合 泰司 様
橘髙 順子 様
木村 明宏 様
黒田 栄子 様
黒野謙太郎 様
小池 知弘 様
小島千恵子 様
小立 英明 様
児玉 充弘 様
後藤 望洋 様
小藤田喜文 様
小林 全喜 様
小林 高久 様
小林 欣興 様
小松原 梢 様
齋藤 雅一 様
齋場 智美 様
坂井ゆりこ 様
佐々 雅代 様
佐藤 龍也 様
佐藤ひろ子 様
佐藤 龍正 様
里森 由英 様
鯉江　伸 様
塩谷 寿典 様
重森 貴裕 様
篠﨑 桂子 様

清水 英弥 様
清水 泰晴 様
須浦 素子 様
須賀　裕 様
杉野 明子 様
椙山 治代 様
鈴木 英樹 様
世木 逸雄 様
銭谷　匡 様
曽木 秀仁 様
髙木　香 様
髙木 節子 様
髙田 達治 様
髙野 利明 様
竹田竜一郎 様
武田 誠之 様
武田 尚子 様
立川希代子 様
館林　誠 様
田中 達也 様
田中 久喜 様
田中　宏 様
棚橋 雄一 様
田村 尚子 様
津賀　洋 様
突廻 恵介 様
辻　秀雄 様
辻　義樹 様
津田 誠二 様
手島 公子 様
寺澤 江里 様
道木 健二 様
冨田 明美 様
中井ゆかり 様
中井 正則 様
長尾美枝子 様
長澤 麗奈 様
中島 裕次 様
中島 恵里 様
中村 弘子 様
中村 政市 様

中村 由美 様
名倉 依里 様
成瀬 武史 様
名和 則幸 様
西原 貞子 様
二宮 謙治 様
二村 史朗 様
丹羽 清子 様
野田 典彦 様
野々部 孝 様
野村 桃子 様
野村 彩純 様
長谷川ひろみ 様
長谷川歩美 様
長谷川恭子 様
服部 恒広 様
服部 哲也 様
羽根 潤至 様
濱島 勝之 様
林　立之 様
林　淑乃 様
林　雅彦 様
原田 修治 様
日置　栄 様
東山 哲也 様
日髙 利雄 様
日野 和晃 様
鶺野 広信 様
平松 好美 様
福井日出子 様
藤井秀比古 様
藤井 敏行 様
藤田 昭子 様
藤山 敬二 様
古川登志之 様
不破 英俊 様
星　光彦 様
堀場 明美 様
牧　和彦 様
松浦 俊博 様
松浦美智子 様

松浦 禮子 様
松尾 佳広 様
松岡 康博 様
松田慎次郎 様
松本 省二 様
真鍋 浩之 様
水野 幸子 様
溝口 義幸 様
皆川 盛子 様
宮崎加奈子 様
三輪　斉 様
三輪奈津子 様
村井 宏通 様
森　英則 様
森田 乾嗣 様
森本 清樹 様
守屋 誠二 様
八島 和祐 様
矢野 幸司 様
山崎 浩明 様
山下 智規 様
山田 由美 様
山田哲太郎 様
山本 貴清 様
山本 晴大 様
山本 憲史 様
横井 由美 様
横井 元紀 様
横田 裕史 様
吉川 常正 様
吉川ひとみ 様
吉川 政英 様
吉田　浩 様
吉田 裕一 様
李　彩実 様
渡辺 観永 様

その他
匿名212名

平成27年4月から平成28年3月までにご寄付をいただいた方を掲載しております。

# 学園研究費助成金

## 平成28年度学園研究費助成金(A) 採択結果

| 学部 | 職位 | 代表者氏名 | 区分 | 研究課題 | 採択額(千円) | 分担者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生活 | 教授 | 藏澄 美仁 | 個人 | 労働衛生に配慮した省エネルギー対策と観葉植物による体感温度の低減効果 | 1,195 | |
| 文情 | 教授 | 飯塚恵理人 | 共同 | 1964年東京オリンピックに向けた日本文化とスポーツ放送関連資料に係る基礎的研究―担当ジャーナリストの手元に残された資料の収集整理とアーカイブ化 | 800 | 文情:脇田 |
| 教育 | 教授 | 宇土 泰寛 | 共同 | 水問題についての大陸間教育と大陸間ミュージカル広場 | 1,362 | 教育:渡邉 小学校:川野 (教育非常勤:林) |
| 教育 | 教授 | 磯部 錦司 | 共同 | 幼小大連携による環境をコアとした芸術教育学研究―北欧州エコ・カリキュラムを基にした日本的実践学の創造― | 651 | 教育:野崎 小学校:三宅、仁ヶ 幼稚園:三田、森 |
| | | | | 合計 | 4,008 | |

## 平成28年度学園研究費助成金(B) 採択結果

| 学部 | 職位 | 代表者氏名 | 区分 | 研究課題 | 採択額(千円) | 分担者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生活 | 教授 | 内藤 通孝 | 共同 | 健常若年女性における血圧と生活習慣、とくに食生活や運動習慣との関わりについて | 300 | 生活:加賀谷 |
| 生活 | 教授 | 石原 久代 | 個人 | 被服制作におけるPreziを用いたビジュアルコンテンツの開発 | 300 | |
| 生活 | 教授 | 大木 和子 | 共同 | 女子高生・大学生におけるロコモティブシンドローム予備群の検討 | 300 | 生活:池田 |
| 生活 | 教授 | 滝本 成人 | 個人 | 椙山女学園大学星が丘キャンパスの車椅子マップの研究 | 300 | |
| 生活 | 准教授 | 橋本 雅好 | 個人 | 空間的特徴を持った保育園における園児の行動特性に関する研究 | 300 | |
| 生活 | 講師 | 河合 潤子 | 個人 | 多様化する病院給食への対応「献立作成システムの標準化」に関する研究 | 300 | |
| 生活 | 講師 | 三田有紀子 | 個人 | 若年女性の月経周期における唾液および尿中ミネラル排泄量の変動 | 300 | |
| 生活 | 助教 | 今井 素惠 | 共同 | 人体と衣服の熱移動特性について | 300 | 生活:上甲 |
| 生活 | 助教 | 山下 健 | 個人 | センシングを用いた設計手法の研究開発 | 300 | |
| 国際 | 教授 | 長澤 唯史 | 個人 | 日本の大衆文化におけるポストモダン・アイデンティティ表象の研究 | 300 | |
| 国際 | 教授 | 戸田由紀子 | 個人 | トニ・モリスンの『スーラ』エピグラフから読み解くセクシュアリティの表象 | 300 | |
| 国際 | 教授 | 笠原 正秀 | 個人 | 海外職業体験型研修プログラム(GCEP)の成果とその分析―英語力と異文化適応能力の観点から― | 300 | |
| 国際 | 教授 | 塚田 守 | 個人 | 在宅看護ケアに関する語りの社会学的研究 | 300 | |
| 国際 | 教授 | 影山 穂波 | 個人 | ジェンダー視点でみるハワイにおける日系人収容所 | 300 | |
| 人間 | 教授 | 杉藤 重信 | 共同 | 信州の酒造りにみる地域性および社会的ネットワークに関する研究 | 284 | 生活:江崎 人間:谷口 文情:宮下 |
| 人間 | 教授 | 長谷川淳基 | 個人 | ムージルの小説「特性のない男」におけるアルフレート・ケルの役割について | 300 | |
| 人間 | 教授 | 山根 一郎 | 個人 | 日進キャンパスにおける気象観測および情報配信 | 255 | |
| 人間 | 准教授 | 三浦 隆宏 | 個人 | 「即興」と「語り」の観点からの公共的な対話活動の理論的基礎づけ | 300 | |
| 人間 | 助教 | 種橋 征子 | 個人 | 介護労働者に対する「ケア」の概念についての研修プログラムの開発 | 300 | |
| 文情 | 教授 | 季 増民 | 個人 | 郊外地域から見た新興国都市化の特質とその背景 | 300 | |
| 文情 | 教授 | 福永 智子 | 共同 | 日本文学関係和書のデジタルライブラリ化についての基礎的研究 | 300 | 文情:飯塚 |
| 文情 | 教授 | 栃窪 優二 | 個人 | 映像アーカイブの研究～椙山女学園の歩みを語り継ぐ～ | 300 | |
| 文情 | 教授 | 羽成 隆司 | 個人 | 他者との身体接触に対する抵抗感の検討 | 300 | |
| 文情 | 准教授 | 阿部純一郎 | 個人 | <持続可能な観光>を支える観光人材の育成:小笠原諸島父島の自然保護活動に関する現地調査を通して | 300 | |
| 文情 | 准教授 | 樋口謙一郎 | 個人 | 北米における言語権の理解と実際 | 300 | |
| 文情 | 准教授 | 向 直人 | 個人 | パーチャルリアリティを利用した学園案内システムの構築 | 300 | |
| 文情 | 准教授 | 小田切和也 | 個人 | 複数組織PBNMの適用領域拡大に関する初期調査研究 | 300 | |
| 文情 | 准教授 | 亀井美穂子 | 共同 | 情報技術を活かした「ものづくり」ワークショップのための人材育成 | 300 | 文情:宮下 文情:向 文情:鳥居 |
| 文情 | 講師 | 木田 勇輔 | 個人 | 都市間競争の時代における大都市のイメージ戦略:その社会学的分析 | 285 | |
| 現マ | 准教授 | 井畑 陽平 | 個人 | シェアリング・エコノミーがもたらす競争法上の論点研究 | 300 | |
| 現マ | 准教授 | 中本 龍市 | 個人 | 情報の非対称性と取引モード:組織と専門職の取引関係を題材に | 240 | |
| 教育 | 教授 | 石橋 尚子 | 共同 | 幼稚園における長時間預かり保育の実施に関する研究 | 300 | 幼稚園:飯田、早川 |
| 教育 | 教授 | 室 雅子 | 個人 | 家庭科指導内容に対する教員の意識と家政教育の課題 | 240 | |
| 教育 | 准教授 | 渡邉 康 | 個人 | 子どもの幸福感と尊厳獲得に寄与するミュージカルの制作とその効果 | 290 | |
| | | | | 合計 | 9,994 | |

## 主な学園行事予定8月～10月

| 日時 | 曜日 | 行事 | 主催・対象 |
|---|---|---|---|
| 8/10・11 | 水・木 | オープンキャンパス(第2回・第3回) | 大学 |
| 8/27 | 土 | AO型入試説明会 | 小学校 |
| 9/1 | 木 | 始業式 | 高・中・小・幼 |
| 9/2 | 金 | 水泳大会 | 小学校 |
| 9/11 | 日 | オープンキャンパス(第4回) | 大学 |
| 9/14 | 水 | 入園希望者説明会 | 幼稚園 |
| 9/16・17 | 金・土 | 文化祭 | 高等学校 |
| 9/20 | 火 | スポーツデー・後夜祭 | 高等学校 |
| 9/21 | 水 | 体育祭 | 中学校 |
| 9/24 | 土 | 入試説明会 | 小学校 |
| 9/30・10/1 | 金・土 | 文化祭 | 中学校 |
| 10/7 | 金 | AO選抜 第1次評価結果発表 | 大学 |
| 10/8 | 土 | 運動会 | 幼稚園 |
| 10/15・16 | 土・日 | 大学祭(15日 ホームカミングデイ) | 大学 |
| 10/22 | 土 | 学習発表会 | 小学校 |
| 10/22 | 土 | AO選抜 第2次評価日 | 大学 |
| 10/29 | 土 | 入試相談会 | 大学 |

## 編集後記

椙山女学園の「学園報」は、昭和50年の学園創立70周年を機に発刊した「学園内報」から始まっています。創刊号はB5版4ページのモノクロ印刷という簡単なもので、創立70周年行事と事業の概要をトップ記事にして、昭和49年度決算、昭和50年度予算のほか人事など現在でもお伝えしている学園の情報を掲載していました。今日の「学園報」はこの学園内報を受け継ぎ、平成18年度発行の第109号から「学園報」と改称し、増ページ、A4版への移行を経て、平成23年度の第127号からはカラー印刷化して現在の仕様となっています。第135号以降は、学園サイトでも公開されるようになりました。学園報はいくつもの変遷を経て、単に情報を伝えるだけでなく、積極的に記録し未来へ伝える機関誌となっています。

ご意見・ご質問などはこちらへお寄せください。 広報課(kouhou@sugiyama-u.ac.jp)